

「こども・こらぼ・らぼ」
記録集 2011-2016



こどもこらぼ"おは"

こどもこらぼ"らぼ"

こどもこらも"らぼ"

ぼ"らぼ"こども



こどもこらぼ"★らぼ"

こどもこども"らぼ"

こどもこども"らぼ"

こどもこども"らぼ"

「こども・こらぼ・らぼ」

記録集 2011-2016



もくじ

はじめに	5
6つのアイコンについて	6
2016年	
プログラム一覧	8
タイムスケジュール	10
会場MAP	12
各プログラムの紹介	14
2011-2015年	
2011年	38
2012年	42
2013年	46
2014年	50
2015年	54
寄稿 関わった人たちの声	
音楽部門との連携	60
演劇部門との連携	62
美術部門による企画	66
事務局との連携	72
外部団体との連携	74
ボランティアとの連携	78
こども・こらぼ・らぼ雑記帳	
インタビュー 参加者から聞きました!	82
現場を支える人たち	84
こども・こらぼ・らぼ・じけんぼ	88
放課後子ども教室について	90
こども・こらぼ・らぼについて	92
来場者データ	94

はじめに

夏休みのアート体験!「こども・こらぼ・らぼ」は、2011年の東日本大震災をきっかけに、被災した子どもたちとご家族の皆さんに穏やかでほっとする時間を提供したい、という思いで始め、2016年までに6回実施されました。

複合文化施設である水戸芸術館の特徴を生かし、美術部門(現代美術センター)が中心となり、音楽、演劇の2部門と館内の各部署(事務局やミュージアムショップ)などが企画に参加、水戸芸術館全体を会場に同時多発的にプログラムを行っています。

プログラムの内容は、アーティストによるワークショップ、楽器体験や絵本の読み聞かせ、仕事体験、古本市など多岐にわたります。また、2日かけて少人数でじっくり取り組むものから、気軽にいつでも体験できるものまで幅があり、参加者は自分でプログラムを選び、水戸芸術館での過ごし方を自由に組み立てることができます。

初回300名ほどだった参加者は2016年には600名を超え、回を重ねるごとに賑やかな夏のアートのお祭りとして定着してきました。

震災の年に小学1年生だった子どもたちは、この春中学校に入学します。被災の記憶は薄れてゆくとしても、表現者に会い、ともに考え一緒に手を動かし、アートの示す多面的な価値観に触れる経験が、子どもたちにとって、困難を乗り越えて自分らしく未来を獲得するための智慧の扉になることを期待しています。

毎年子どもたちとともに成長してきた企画の歩みをご覧いただくために、この記録集をまとめました。

最後になりましたが、「こども・こらぼ・らぼ」にご協力いただきました全ての皆さまに、この場をお借りしてお礼申し上げます。

2017年2月

水戸芸術館現代美術センター

6つのアイコンについて

この記録集では6年間の記録を一同に紹介するとともに、実施したプログラムを6つのカテゴリーに分けています。

「こども・こらぼ・らぼ」の特徴は、水戸芸術館内外のさまざまな人たちが関わって企画、運営を行っていることです。これを視覚化するためにプログラムをカテゴリー分けし、アイコンで表示しています。記録集のP.60～79には、それぞれのカテゴリーから関わった人たちの声を掲載しています。



音楽部門との連携



演劇部門との連携



美術部門による企画



事務局*との連携



外部団体との連携



ボランティアとの連携

*水戸芸術館の総務や経理、
広報を行っています

[凡例]

- 「こども・こらぼ・らぼ」の表記は、「こらぼらぼ」に短縮表記している箇所もあります。
- 「★…自由参加」は予約不要のプログラムです。

2016年

こども・こらぼらぼ

2016

日時 2016年8月20日[土]・21日[日]
 各日10:00～16:30
 料金 小中学生800円(2日通し券1000円)
 高校生以上1000円(2日通し券1200円)
 展覧会 「記憶の円環 | 榮榮&映里と袁廣鳴の
 映像表現」
 主催 芸術文化活性化事業実行委員会、公益財団法人
 水戸市芸術振興財団、水戸市、平成28年度 文化
 庁文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業
 協力 アサヒビール株式会社、ヤマト株式会社



チラン表面

1

ゆうくんとマットさんの
 「おはなしトラペゼル」
 出演：大内真智、小林祐介(劇団ACM)
 日時：8月20日[土] 10:00～10:45/
 11:30～12:15/15:30～16:15
 8月21日[日] 10:00～10:45/
 12:00～12:45



関連 P.14～15、P.62～65

2

ダイダラボウの
 鼻ちょうちん

講師：塩川岳(美術家)
 日時：8月20日[土]
 10:00～14:00



関連 P.16

3

米粒人形を
 つくろう

講師：岡崎ゆき子
 (米粒人形師)
 日時：8月21日[日]
 10:00～
 12:30



関連 P.18～19

5

いきなり!
 ミュージアムショップスタッフ

講師：ミュージアムショップスタッフ
 日時：8月20日[土] 14:30～15:30
 8月21日[日] 11:00～12:00
 15:00～16:00



関連 P.20

4

はりきり! 広報係員

講師：水戸芸術館広報係員
 日時：8月20日[土] 13:00～14:30
 8月21日[日] 15:00～16:30



関連 P.17

6

なりきり!
 ATMフェイス(館内係員)
 講師：水戸芸術館総務係員
 日時：8月21日[日] 13:00～14:00



関連 P.21、
 P.72～73

7

世界でひとつだけの
 木琴を作ろう!

講師：通崎睦美(木琴奏者)
 日時：8月21日[日]
 10:00～16:00



関連 P.22～23、P.60～61

「木琴お披露目会」

日時：8月21日[日]
 16:00～

8

工作屋台★

講師：ふえいす・らぼ
 日時：8月20日[土]・21日[日]
 11:00～15:30



関連 P.24、P.78～79

9

「放課後の学校クラブ」との連携企画
 オリジナルの学校1日限定開校!★

講師：「放課後の学校クラブ」子ども部員
 日時：8月21日[日] 14:00～16:00



関連 P.25、P.74～77

10

光のマンドラを描こう!★

講師：林友深(アーティスト)
 日時：8月20日[土]・21日[日]
 10:00～16:00



関連 P.26～27、
 P.90～91

11

100gをつくろう!★

講師：タムラサトル(現代美術家)
 日時：8月20日[土]・21日[日]
 10:00～16:30



関連 P.28

12

1000kgになろう!★

講師：タムラサトル
 (現代美術家)
 日時：8月20日[土]・21日[日]
 14:00/15:00/16:00



関連 P.29

13

松村泰三作品展示
 「虹をつくろう!」★

日時：8月20日[土]・21日[日]
 10:00～16:30



関連 P.30

14

こどもの絵本「こしょこしょ市」

日時：8月20日[土]・21日[日]
 10:00～18:00



関連 P.31

15

パイプオルガン・
 プロムナード・コンサート
 夏休みスペシャル★

演奏：石丸由佳(オルガニスト)
 日時：8月20日[土]
 13:00～13:45



関連 P.32



…音楽部門との連携



…演劇部門との連携



…美術部門による企画



…事務局との連携



…外部団体との連携



…ボランティアとの連携

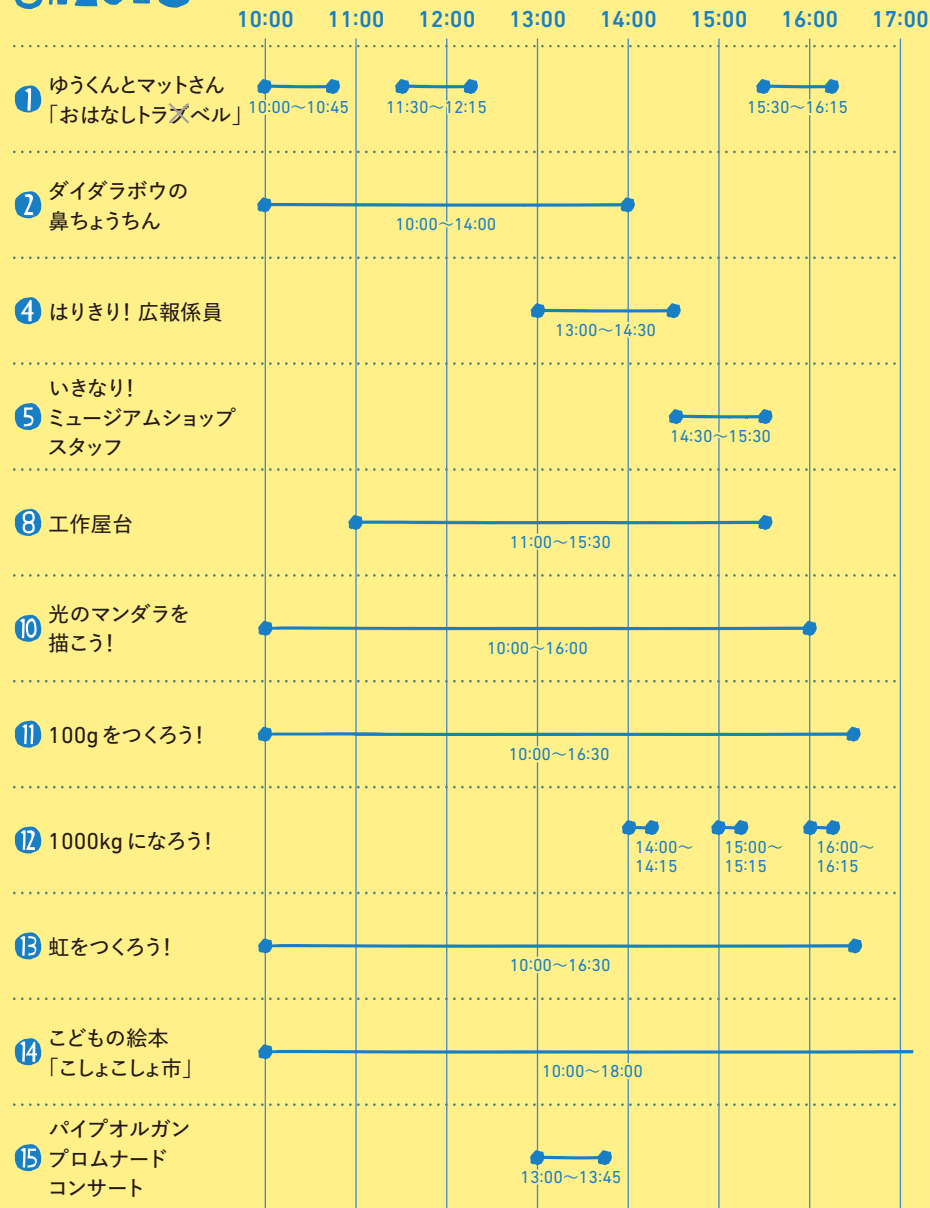


★…自由参加

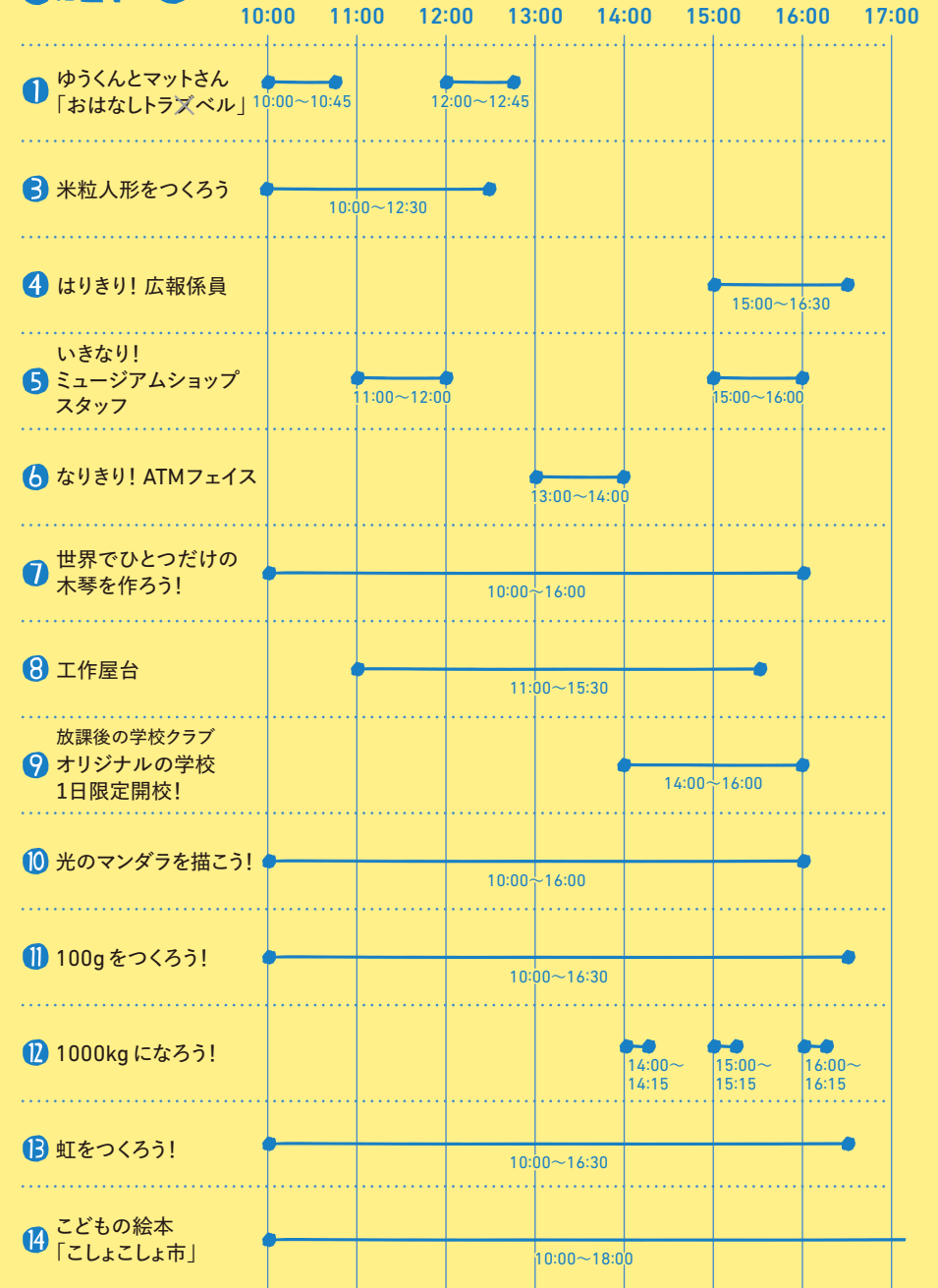
チラシデザイン・イラストレーション：ゴロウ

タイムスケジュール

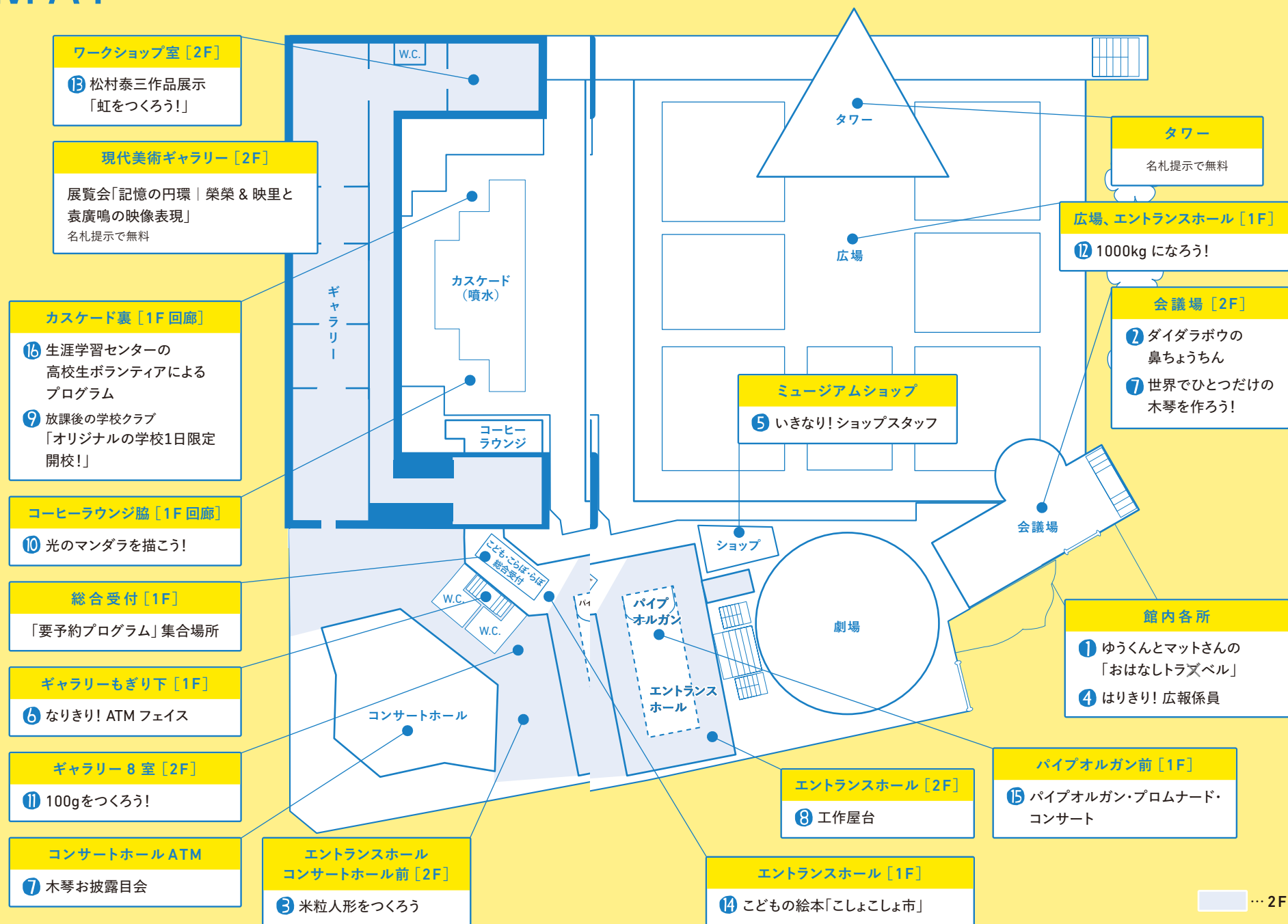
8月20日土



8月21日日



会場MAP



ゆうくんとマットさんの「おはなしトラベル」



毎年ギャラリーで絵本の読み聞かせをする人気ユニットによるツアー。今年は読み聞かせに必要な絵本や楽器などの道具が妖精に隠されて、二人が困り顔で子どもたちに相談するところから始まりました。心配する子どもたちと一緒に謎解きをしながら道具を探す館内ツアーに出発！オルガンの裏側やタワーの展望台などで、道具を見つける度に歓声があがります。最後にコンサートホールの座席で大きな絵本を探しあて、無事に読み聞かせができました。(→P.62~65)



出演 | 大内真智、小林祐介(劇団ACM)

日時 | 8月20日[土] 10:00~10:45
11:30~12:15
15:30~16:15
8月21日[日] 10:00~10:45
12:00~12:45

会場 | 館内各所
対象 | 4歳~小学生
参加者 | 87名(20日53名/21日34名)



ダイダラボウの鼻ちょうちん



水戸にも伝説がある巨人「ダイダラボウ」。寝ている時は大きな鼻ちょうちんをつくっていたのでは?という想像から、大きな鼻ちょうちん型のエアドームをつくりました。参加者同士で協力しながら70枚のビニール袋を切り、テープで貼り合わせ、鼻ちょうちんの形に切り取ります。2時間後に完成し、送風機で中を膨らめると24名の親子がゆったり入れる空間に。ミラーボールを入るとキラキラと光り、異空間を楽しんでいました。



講師 | 塩川 岳 (美術家)

日時 | 8月20日[土] 10:00~14:00
会場 | 会議場
対象 | 小学生~大人
参加者 | 24名

はりきり! 広報係員



2日間の様子はこちらのブログで見られます。
<http://blog.arttowermito.or.jp/staff/>

水戸芸術館をたくさんの人に知ってもらうため、日頃の活動を紹介することも広報係の仕事のひとつです。今回は「水戸芸術館スタッフのブログ」の記事をつくるため、取材を行いました。館内やこらぼらぼのプログラムを見学し、気になる人にインタビューと撮影をしたら、取材内容を手書き原稿にして終了。数時

間後には、広報スタッフのコメントとともに原稿がブログにアップされました。

講師 | 水戸芸術館広報係員

日時 | 8月20日[土] 13:00~14:30
8月21日[日] 15:00~16:30
会場 | 館内各所
対象 | 小学3~6年生
参加者 | 6名(20日4名/21日2名)

米粒人形をつくろう



一粒一粒の米に、絵や文字が書いてある茨城県の民芸品「米粒人形」を親子でつくりました。75mm角の色紙に米粒と手描きの絵で小さな世界を表現します。前日はリオ五輪陸上男子400mリレーの日。ゴール直前でウサイン・ボルトとケンブリッジ飛鳥が接戦を繰り広げる様子を米粒で表現したお父さんや、米粒を黄色に塗り6兄弟の目に見立てたウルトラマンが大好きな男の子も。岡崎氏も驚くほどの、粒揃いの作品が完成しました。

講師 | 岡崎ゆき子 (米粒人形師)

日時 | 8月21日 [日] 10:00~12:30

会場 | エントランスホール2階

対象 | 小学生~大人

参加者 | 25名

Interview

米粒人形師に弟子入りしたい!

参加者の声 | 小藤公美華さん (小6)、敦子さん (母)

こらぼらぼ終了後、お母さんの敦子さんから1本の電話が。娘が米粒人形をととても気に入って毎日制作しているので、使っている道具や岡崎さんに弟子入りする方法を教えてくださいというお問い合わせでした。その後の公美華さんにお話を聞きました。



小藤公美華さん

Q なぜ参加しようと思ったのですか?

公美華さん (以下K): こらぼらぼのチラシを見て、インターネットでお母さんと米粒人形を調べたら、とても細かい作業だと知りました。私も手を動かすことが好きだったので、やってみたいと思いました。

Q 当日は米粒人形の画像を持ってきましたよね?

K: やってみたい作品 (だるまさんや鯉のぼり、パンダなど) をプリントアウトして持ってきました。こらぼらぼでは、色とりどりの鯉のぼりをつくりました。

Q 引き続き家でも制作したのですよね?

K: パンダが池の鯉を見ている風景を、制作した鯉のぼりに付け加えました。絵の中で、本物の鯉と鯉のぼりがいる設定です。

Q その後は何かつくりましたか?

K: 12枚制作して、1年分のカレンダーをつくりました。鯉のぼりの作品は5月のカレンダーです。例えば1月はお正月の鏡もちを米粒でつくるなどして季節を表現しています。

Q 参加した時どんなことを思いましたか?

K: 材料や筆の種類が多いなと思いました。そして本当にとても細かい作業なんだなあと岡崎さんの手元を見て思いました。最初は思うように筆が動きませんでしたが、他の人がつくっている姿を見て、参考にしたりアレンジしたりするうちに段々と面白くなってきました。

Q 岡崎さんと制作してどんなことを感じましたか?

K: 失敗が許されないか、ひとつのことに集中して真剣に取り組んでいる姿を見て、勉強や他のことも岡崎さんのように頑張りたいなと思いました。

Q お母さんから何かありますか?

敦子さん: 12枚のカレンダーは敬老の日が近かったので、広島に住む公美華の祖母に送りました。母も手芸が好きなので、すごいね、頑張ったねと娘に伝えていました。また、アメリカ人の親戚に制作した作品を見せると、素晴らしい!すごい!と興奮していました。カレンダーをつかった後は勉強が忙しくなりお休みしていますが、受験勉強が終わったのでそろそろ再開させてあげたいと思っています。

(2016年12月12日、電話にてインタビュー)

いきなり! ミュージアムショップスタッフ



館内のミュージアムショップ「コントロールポアン」のスタッフの仕事を体験。エプロンをつけ名札をしたら、ショップスタッフにいきなり変身!「いらっしゃいませ!」「ありがとうございました!」の基本のあいさつを覚えたら、商品の整理や袋詰め、プレゼント用ラッピングの仕方を教えてもらいます。実習中もお客様がいらっしゃるの、その時は接客に。突然現れた小さな店員さんに、お客様は温かく応じて買い物をしてくださいました。



講師 | ミュージアムショップスタッフ

日時 | 8月20日[土] 14:30~15:30
8月21日[日] 11:00~12:00
15:00~16:00

会場 | ミュージアムショップ「コントロールポアン」

対象 | 小学3~6年生

参加者 | 9名(各回3名)

なりきり! ATMフェイス(館内係員)



「ATMフェイス」と呼ばれる館内係員の普段の仕事を体験します。ちょうちょ模様のスカーフを巻いたら、ATMフェイスになりきり! お辞儀の仕方や美しい姿勢、接客について学んだら2組に分かれてお客様のご案内をします。ギャラリーではお客様の入場対応を、タワーのエレベーターではタワーについての説明をしました。最初は覚えたことを実践しようと緊張の面持ちでしたが、後半はATMフェイスになりきった、とびっきりの表情を見せてくれました。(→P.72~73)



講師 | 水戸芸術館総務係員

日時 | 8月21日[日] 13:00~14:00

会場 | 館内各所

対象 | 小学3~6年生

参加者 | 4名

世界でひとつだけの木琴を作ろう！



木琴奏者の通崎睦美による、木琴制作から演奏披露までを組み込んだワークショップ。最初にいろいろな国の木琴の音色を聴くことで、世界の国や地域にはそれぞれ独特の音階があることに気がきます。制作は自分だけの音階をつくろうとノコギリ片手に悪戦苦闘。最後に好きな絵を描いて世界にひとつだけの木琴が完成です！コンサートホールに移動して、通崎氏と一緒に圧巻の即興演奏を披露しました。(→P.60～61)



講師
制作
サポート

通崎睦美 (木琴奏者)
飯野晶子、小山理恵
(パーカッション奏者)

日時 | 8月21日[日] 10:00～16:00
会場 | 会議場
対象 | 小学3年生～大人
材料費 | 1000円
参加者 | 26名



「木琴お披露目会」

日時 | 8月21日[日] 16:00～
会場 | コンサートホールATM



工作屋台



申込み不要で誰でも自由に小物づくりができる屋台は、館内係員ATMフェイス有志による手芸クラブ「ふえいす・らぼ」がアイデアを出し、運営をしています。今年はカラフルなテープでつくるバッグ、毛糸でつくるお守り「ゴッド・アイ」、ストローを代用したアイロンビーズをつくりました。他のプログラムに参加する兄弟を待つ未就学児も楽しめる場所を提供したい、との思いで始まった企画ですが、この屋台を楽しみに参加するお客様も増えました。(→P.78~79)



講師 | ふえいす・らぼ

日時 | 8月20日[土]・21日[日]
11:00~15:30

会場 | エントランスホール2階

対象 | 未就学児~大人

★…自由参加

「放課後の学校クラブ」との連携企画 オリジナルの学校1日限定開校!



水戸市立浜田小学校を拠点に年間を通じて実施されている《放課後の学校クラブ》は、美術家の北澤潤発案のプロジェクト。子どもたち自身が考える理想の学校、授業を形にする活動です。4回目の参加となる2016年は、水戸芸術館の回廊で1日限定の学校を開校。「おそうじフェスティバル」「雪だるま生徒スキー」「生き物つりばり」など、ユニークなタイトルの授業の数々を子どもたちが運営し、たくさんの親子連れが楽しめました。(→P.74~77)



講師 | 「放課後の学校クラブ」
子ども部員

日時 | 8月21日[日] 14:00~16:00

会場 | 回廊

対象 | 未就学児~大人

★…自由参加

光のマンダラを描こう！



乾くと、ステンドグラスのように色鮮やかに光がとおるシールができる、不思議な絵の具を使って、好きなものを描きます。身近な動植物や不思議な模様などバラエティに富んだたくさんの作品と、日常の出来事を描いた林友深の作品を交ぜにして、カスケード（噴水）やコーヒーラウンジのガラス窓に展示しました。夏の風物詩であるカスケードで水遊びをする子どもたちや、コーヒーを飲む人たちの風景や時間に彩りを与えてくれました。（展示期間：8月22日～9月30日）



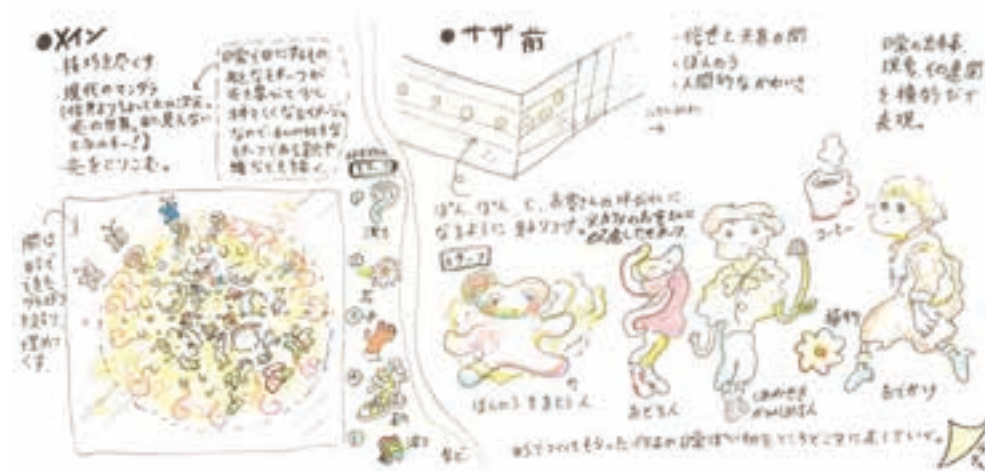
講師 | 林友深（アーティスト）

日時 | 8月20日[土]・21日[日]
10:00～16:00

会場 | コーヒーラウンジ付近

対象 | 未就学児～大人

★…自由参加



林友深のアイデアスケッチ

学校にも行きました！

9月15日、水戸市立笠原小学校の「放課後子ども教室（→P.90～91）」でも行いました。言葉にできない気持ちや、目に見えないエネルギーを表現してみよう！という林氏のイントロダクションから制作開始。子どもたちのエネルギーは絵の具の量にも反映されたようで、絵の具が足りなくなるハプニングも。小学校の渡り廊下の窓ガラスに展示された作品は、空に浮かんでいるようでした。



100gをつくろう!



タムラサトルの作品の一つである《100g Toy》(100gぴったりの彫刻作品)を題材に、自分だけの100g作品をつくりました。盛りだくさんの材料の中から好きなものを選び、ホットボンドで貼りつけていきます。材料を増やしたり減らしたりして重さを調整していきますが、なかなか100gぴったりにならず悔しがれる声も。完成後、撮影コーナーで100gの作品と一緒に写っている子どもたちの表情は、達成感に満ちあふれていました。



講師 | タムラサトル (現代美術家)

日時 | 8月20日[土]・21日[日]
10:00~16:30

会場 | ギャラリー8室
対象 | 未就学児~大人

★...自由参加

1000kgになろう!



「みんなで協力して1000kgになろう!」と書いてあるプラカードを持ったタムラ氏についていくと、そこには1.5m四方の大きなハカリが! 持っているカバンを降ろしてもらったり、近くにいる男の子に乗ってもらったりして1000kgぴったりを目指します。日差しの強いなか、ぎゅうぎゅうのハカリの上で1000kgになるまでみなさん耐えてくれました。通りがかりの人や中庭で遊んでいる人たちも巻き込んで、にぎやかな時間となりました。



1000kgになりました!

講師 | タムラサトル (現代美術家)

日時 | 8月20日[土]・21日[日]
14:00/15:00/16:00

会場 | 広場、エントランスホール1階
対象 | 未就学児~大人

★...自由参加

松村泰三作品展示「虹をつくろう!」



ワークショップ室に入り、特殊な照明の下で白い棒を振ったり、縄跳びをしてみると、その軌道に美しい虹が現れます。虹色の種類はいくつかあり、時間がたつと別の色合いに変わります。そんな不思議な虹の部屋では、からだをおもいきり動かして、光と遊ぶ子どもたちの姿が見られました。この部屋の作者、アーティストの松村泰三は誰でも参加して楽しめるシンプルな方法で、光の仕組みや美しさを伝えるワークショップを数々行っています。



日時 | 8月20日[土]・21日[日]
10:00~16:30
会場 | ワークショップ室
対象 | 未就学児~大人
★...自由参加

こどもの絵本「こしよこしよ市」



本との偶然の出会い、モノとしての肌触り、印刷の匂い、ページをめくる音、店主とのやりとりなど、かつて街にあった本屋での豊かな経験は、デジタルの時代になっても子どもたちに提供したいことのひとつ。そしてそれは訪れる大人たちにとっても、なお必要な空間です。毎年数店の古書店の協力で実現している「こしよこしよ市」は、子どもにも大人にも楽しめる絵本を中心とした品揃えで、来館者誰もが利用できる小さな本屋です。



日時 | 8月20日[土]・21日[日]
10:00~18:00
会場 | エントランスホール1階
参加店 | Li:ttle(水戸)
古書信天翁(東京・日暮里)
オヨヨ書林(金沢)
ハナメガネ商会(益子)

パイプオルガン・プロムナード・コンサート 夏休みスペシャル



週末のお昼時、エントランスホールで行われるパイプオルガンのコンサートは、どなたでも気軽に楽しめる人気の催しです。こらぼらぼの時には「夏休みスペシャル」と題して、子どもたちにも親しみやすい曲が演奏されます。今年も親子連れを中心に250名の来館者で会場は満員。工夫を凝らした照明演出とともに、映画「スターウォーズ」のメドレーなどが、まるでオーケストラさながらの迫力で華やかに演奏され、会場を沸かせました。



演奏 | 石丸由佳 (オルガニスト)

日時 | 8月20日[土] 13:00~13:45

会場 | エントランスホール

★…自由参加

番外編 | ボランティアによる企画



回を重ねると「こらぼらぼにいいかも?」とか「子どもとこんな活動がしたい」など、企画を提案する方も出てきます。その中から実現可能なプログラムを加えて実施することがあります。今年は水戸生涯学習センターの高校生(+大人)ボランティアが参加。水戸芸術館のスタッフと打ち合わせをして実現に至る過程は彼らの練習場でもありました。当日実施した「バルーンアート動物園」「何でもパッケージ」は通りがかりの人も気軽に参加して、賑わいました。



日時 | 8月20日[土]・21日[日]
10:00~16:30

会場 | 回廊

★…自由参加



プログラムの終了後は、スタッフ全員でミーティングを行う。



2011-2015年

こどもこらぼらぼ

2011

日時 2011年8月20日[土]・21日[日]
各日10:00～17:00
料金 小中学生500円(2日通し券800円)
高校生以上1000円(2日通し券1200円)
展覧会 カフェ・イン・水戸 2011
—かかわりの色いろ—
主催 水戸市、水戸市教育委員会、芸術文化活性化事業実行委員会、財団法人水戸市芸術振興財団
協力 アサヒビール株式会社



チラシ表面

1 toboの布遊び
講師: 当房優子 (バッグ+オブジェ制作)
日時: 8月20日[土] 14:00～15:00
8月21日[日] 10:00～11:00
14:00～15:00
会場: ギャラリー6室
参加者: 67名(20日26名/21日41名)

2 紙で作る1/100の世界
講師: 寺田尚樹 (テラダモケイ)
日時: 8月20日[土] 11:00～12:00
15:30～16:30
8月21日[日] 11:00～12:00
会場: ワークショップ室
参加者: 49名(20日32名/21日17名)

3 タワーをつくろう
講師: 山内未央 (ATMフェイス)
日時: 8月20日[土]・21日[日]
13:00～14:00/15:30～16:30
会場: ギャラリー6室
参加者: 81名(20日41名/21日40名)

4 想い浮かべる空
講師: 林剛人丸 (アーティスト)
日時: 8月21日[日] 15:00～16:30
会場: ワークショップ室
参加者: 35名
*10月16日[日]に、林剛人丸の作品
《GO FLIGHT AIRSHIP》に制作した空の絵
を投影しました。

**5 こどものための
ギャラリートーク**
ガイド: ATMフェイス、
CACギャラリートーカー
日時: 8月20日[土]・21日[日]
14:00～15:00
会場: 現代美術ギャラリー
参加者: 9名(20日3名/21日6名)

**6 親子のためのバックステージツアー
「やってみる? 劇場」**
講師: 演劇部門スタッフ、劇団ACM
日時: 8月20日[土]・21日[日]
11:00～12:00
会場: ACM劇場
参加者: 40名(各日20名)

7 ゆうくとマットさんのおはなしキャリアボックス
出演: 大内真智、小林祐介 (劇団ACM)
日時: 8月20日[土]・21日[日]
10:00～11:00/13:00～14:00/
15:00～16:00
会場: 現代美術ギャラリー

8 こどもインターン
対象: 小学4年生～中学生

美術館スタッフコース
講師: 美術部門学芸員
日時: 8月20日[土]・21日[日]
13:00～14:30
会場: 館内各所
参加者: 8名(20日3名/21日5名)

カメラマンコース
講師: 山崎宏之 (写真家)
日時: 8月20日[土]・21日[日]
14:00～16:00
会場: 現代美術ギャラリー
参加者: 9名(20日6名/21日3名)

ATMフェイス (館内係員) コース
講師: 総務係員
日時: 8月20日[土]・21日[日]
10:30～12:00
参加者: 6名(20日4名/21日2名)

ミュージアムショップコース
講師: ミュージアムショップスタッフ
日時: 8月20日[土] 11:00～12:30
15:00～16:30
参加者: 6名

9 関連企画
「音楽×こども×アート」
プロジェクト ワークショップ
演奏: 中川賢一、小坂圭太 (ピアノ)
協力: 宇井孝司 (演出家・脚本家)
日時: 8月28日[日]
10:00～/13:00～/15:30～
会場: ワークショップ室
参加費: 500円
参加者: 59名
*10月1日[土]に、「みる☆ハルサイ2台ピアノで
ストラヴィンスキー」のコンサートで、制作した
絵が舞台上に投影されました



*高校生による番外編「工作屋台」(店主: 有田里紗子)も参加
*特に記載のないプログラムは小中学生対象



関連
P.72
～73



2011



1,2 toboの布遊び 3 紙で作る1/100の世界 4 タワーをつくろう 5,6 想い浮かべる空 7 こどものためのギャラリートーク

8 やってみる?劇場 9 ゆうくとマツさんのおはなしキャリーボックス 10 ミュージアムショップコース 11,12 カメラマンコース

こどもこらぼらぼ

2012

日時 2012年8月18日[土]・19日[日]
各日10:00～16:30
料金 小中学生 500円(2日通し券 800円)
高校生以上 1000円(2日通し券 1200円)
展覧会 水戸岡鋭治の鉄道デザイン展
駅弁から新幹線まで
主催 水戸市、水戸市教育委員会、芸術文化活性化
事業実行委員会、公益財団法人水戸市芸術
振興財団
助成 公益財団法人アサヒビール芸術文化財団
協力 アサヒビール株式会社



チラシ表面

1 こどものためのオルガン体験

講師：山口綾規(オルガニスト)
日時：8月18日[土] 10:00～11:00
会場：エントランスホール
対象：小学生
参加者：38名

2 「パイプオルガン・プロムナード・コンサート」夏休みスペシャル

演奏：山口綾規(オルガニスト)
日時：8月18日[土]
12:00～12:30/13:30～14:00
会場：エントランスホール

3 親子のためのバックステージツアー 「やってみる? 劇場」

出演：劇団ACM
日時：8月18日[土] 14:00～15:00
8月19日[日] 10:00～11:00
13:00～14:00
会場：ACM劇場
対象：小学生以上の親子
参加者：72名(各回24名)

4 ゆうくとマットさんの 「おはなしキャリーボックス」Ⅱ

出演：大内真智、小林祐介(劇団ACM)
日時：8月18日[土]・19日[日]
11:00～12:00/15:00～16:00
会場：現代美術ギャラリー
対象：未就学児～大人

5 水戸岡さんとめぐる ギャラリーツアー

講師：水戸岡鋭治
(デザイナー、イラストレーター)
日時：8月18日[土]・19日[日]
14:00～15:00
会場：現代美術ギャラリー
対象：小学生～大人
参加者：67名(18日33名/19日34名)

6 鉄道の紙模型をつくろう!

日時：8月18日[土]・19日[日]
11:00～/13:00～/15:00～
会場：現代美術ギャラリー
対象：未就学児～大人

7 車窓の風景をつくろう

日時：8月18日[土]・19日[日]
13:00～16:00
会場：コーヒラウンジ外側
対象：小学生～大人
協力：アトリエゆたか

8 Migakikko Jamboree Mito みがきっこジャンボリー水戸

講師：山本高之、出口尚宏
日時：8月18日[土]・19日[日]
10:00～12:30
会場：広場
対象：小学1～4年生の親子
参加者：28名(18日17名/19日11名)

9 “染め”の体験 「ハンカチ/Tシャツに絵を描こう」

講師：Jaco(鳥田奈津子、松井彰子)
日時：8月18日[土]・19日[日]
会場：ワークショップ室
対象：小中学生

① 筒染めでハンカチに絵を描こう

日時：[Aコース] 18日 10:00～11:00
19日 10:00～12:00
[Bコース] 18日 11:30～12:30
19日 14:00～16:00
参加者：32名(各コース16名)

② 柿渋染でTシャツに絵を描こう

日時：8月18日[土] 14:00～16:00
参加者：25名

10 木でつくる 「想像をかたちにしてみよう」

講師：稲葉朗、福島康恵(彫刻家)
日時：8月18日[土]・19日[日]
13:00～15:00
会場：ワークショップ室
対象：小学3年生～中学生
参加者：21名(18日10名/19日11名)

11 こどもインターン

対象：小学4年生～中学生

ATMフェイス(館内係員)

日時：8月18日[土] 10:30～12:00
参加者：4名

ミュージアムショップ

日時：8月18日[土]
11:00～12:00/15:00～16:00
参加者：6名

コーヒラウンジ

日時：8月18日[土] 10:30～11:30
15:00～16:00
8月19日[日] 11:00～12:00
参加者：6名(各回2名)

こどもキヨスク

講師：白石綾
日時：8月18日[土]・19日[日]
12:30～14:00
会場：館内各所
参加者：6名(各日3名)

こどもDJ

日時：8月19日[日] 13:00～16:00
会場：館内各所
参加者：6名
*オープンラジオ「こどもDJ」はじめてのマイク
と題して、館内で公開生放送を行いました。
(アークスプロジェクト2012いばらきとの連携事業)

2012



1 こどものためのオルガン体験 2 やってみる? 劇場 3 水戸岡さんとめぐるギャラリートour 4 車窓の風景をつくろう
5 鉄道の紙模型をつくろう! 6 みがきッコジャンボリー水戸

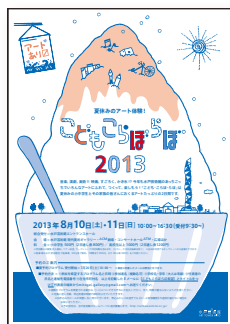
7.8 “染め”の体験「ハンカチ/Tシャツに絵を描こう」 9 コーヒーラウンジ 10 こどもキヨスク 11,13 こどもDJ 12 木でつくる「想像をかたちにしてみよう」

こどもこらぼらぼ

2013

日時 2013年8月10日[土]・11日[日]
各日10:00～16:30
料金 小中学生 500円(2日通し券 800円)
高校生以上 1000円(2日通し券 1200円)
展覧会 曾谷朝絵展「宙色(そらいろ)」

主催 公益財団法人水戸市芸術振興財団
協力 アサヒビール株式会社、株式会社ターレンス
ジャパン、有限会社アートスペースナカタニ



チラシ表面

1 こどものためのパイプオルガン体験

講師: 山口綾規 (オルガニスト)
日時: 8月11日[日]
10:00～10:45/10:50～11:35
会場: エントランスホール、
コンサートホールATM
対象: 小学生
参加者: 46名

2 「パイプオルガン・プロムナード・コンサート」夏休みスペシャル

演奏: 山口綾規 (オルガニスト)
日時: 8月11日[日]
12:00～12:30/13:30～14:00
会場: エントランスホール

3 ゆうくとマットさんの「おはなしキャリーボックス」Ⅲ

出演: 大内真智、小林祐介 (劇団ACM)
日時: 8月10日[土]・11日[日]
10:00～11:00/13:00～14:00
会場: 現代美術ギャラリー
対象: 未就学児～大人

4 みんなde絵本をつくろう!

講師: 大内真智、小林祐介 (劇団ACM)
日時: 8月10日[土]・11日[日]
15:00～16:00
会場: エントランスホール2階
対象: 小学1～3年生
参加者: 32名 (各日16名)

5 やってみる? 劇場「音の達人」ワークショップ

～効果音づくりから音出しまで～
講師: 井上桂 (演劇部門学芸員)、塩谷亮、
遠島立夫、澤田考司 (劇団ACM)
日時: 8月11日[日]
11:00～12:00/13:00～14:00
会場: ACM劇場
対象: 小学4～6年生
参加者: 20名

6 こどもギャラリートーク

ガイド: CACギャラリートーカー他
日時: 8月10日[土]・11日[日]
14:00～15:00
会場: 現代美術ギャラリー
対象: 小学生
参加者: 9名 (10日2名/11日7名)

7 大きな絵の中を冒険しよう、宝を探そう!

講師: 根本有華 (イラストレーター)
日時: 8月10日[土]・11日[日]
13:00～16:30
会場: ワークショップ室
対象: 小中学生
参加者: 61名 (10日26名/11日35名)

8 パステルで心の色を描いてみよう

講師: 七字純子 (パステル作家)
日時: 8月10日[土]・11日[日]
11:00～12:15/14:00～15:15
会場: 現代美術ギャラリー
対象: 小学生～大人
参加者: 82名 (10日40名/11日42名)

9 出張! かき氷自転車

～水戸芸スペシャル～
講師: 自転車部
(出張部員/栗原汐里、木村吉見)
日時: 8月10日[土]・11日[日]
10:00～16:00
会場: ワークショップ室付近
対象: 未就学児～大人
かき氷: 100円

10 放課後の学校クラブとの連携企画 すごろく学校

日時: 8月11日[日] 13:00～16:00
会場: 広場
対象: 小学生～大人

11 水戸短編集映像祭との連携企画 キッズ・シネマ・プロジェクト!

講師: 三宅唱、佐藤央 (映画監督)、平島悠三 (NPO法人シネマパンチ/水戸短編集映像祭ディレクター) 他
日時: 8月10日[土]・11日[日]
10:00～16:00
会場: 館内各所
対象: 小学4年生～中学生
参加者: 13名

12 こどもの絵本「こしょこしょ市」

日時: 8月10日[土]・11日[日]
10:00～16:00
会場: エントランスホール2階
参加店: Li: ttle(水戸)
古書信天翁(東京・日暮里)
オヨヨ書林(金沢)

13 こどもインターン

コーヒーラウンジ
日時: 8月10日[土]・11日[日]
11:00～12:00/14:00～15:00
対象: 小学4年生～中学生
参加者: 10名 (10日4名/11日6名)

ミュージアムショップ
日時: 8月11日[日] 15:00～16:00
対象: 小学4年生～中学生
参加者: 2名

ATMフェイス (館内係員)
日時: 8月11日[日] 10:00～11:00
対象: 小学4年生～中学生
参加者: 4名

広場ではドリンクなどの移動販売車が出店
・10日=サニーズクレープ、ハチバス
・11日=出張お茶サービス社

2013



1



2



4



3



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14

1「音の達人」ワークショップ 2 コーヒーラウンジ 3,4 こどもギャラリートーク 5 みんな de 絵本をつくろう! 6 こどもの絵本 こしょこしょ市 7 大きな絵の中を冒険しよう、宝を探そう!

8 ATMフェイス 9 こどものためのパイプオルガン体験 10 すぐろく学校 11 パステルで心の色を描いてみよう 12 キッズ・シネマ・プロジェクト! 13,14 出張! かき氷自転車

こどもこらぼらぼ

2014

日時 2014年8月9日[土]・10日[日]
各日10:00～16:30
料金 小中学生 500円(2日通し券 800円)
高校生以上 1000円(2日通し券 1200円)
展覧会 鈴木康広展「近所の地球」
主催 芸術文化活性化事業実行委員会、公益財団法人水戸市芸術振興財団、水戸市、水戸市教育委員会、平成26年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ
協力 アサヒビール株式会社



チラシ表面

1 こどものための
パイプオルガン体験
講師：山口綾規(オルガニスト)
日時：8月9日[土]
10:00～10:45/11:00～11:45
会場：エントランスホール
対象：小学生
参加者：44名

2 「パイプオルガン・プロムナード・
コンサート」夏休みスペシャル
演奏：山口綾規(オルガニスト)
日時：8月9日[土] 13:30～14:15
会場：エントランスホール

3 やってみる？ 劇場
えんげきのいろいろ体験
ワークショップ
講師：劇団ACM、演劇部門スタッフ
日時：8月9日[土]・10日[日]
11:00～12:00/14:00～15:00
会場：ACM劇場
対象：小学4～6年生
参加者：33名(9日16名/10日17名)

4 ゆうくとマットさんの
「おはなしキャリーボックス」
フォー！[4]
出演：大内真智、小林祐介(劇団ACM)
日時：8月9日[土]・10日[日]
10:00～11:00/13:00～14:00/
15:00～16:00
会場：現代美術ギャラリー
対象：未就学児～大人

5 鈴木康広のお話とワークショップ①
「まばたきの葉をつくろう」
講師：鈴木康広(アーティスト)
日時：8月9日[土]・10日[日]
11:00～12:30
会場：ワークショップ室、
現代美術ギャラリー
対象：小学生～大人
参加者：77名(9日37名/10日40名)

6 鈴木康広のお話とワークショップ②
「羽根の人をつくろう」
講師：鈴木康広(アーティスト)
日時：8月9日[土]・10日[日]
14:00～15:30
会場：ワークショップ室、
現代美術ギャラリー
対象：小学4～6年生
参加者：32名(各日16名)

7 こどもギャラリートーク
ガイド：CACギャラリートーカー他
日時：8月9日[土]・10日[日]
13:00～14:00
会場：現代美術ギャラリー
対象：小学生
参加者：8名(9日1名/10日7名)

8 タワー登山と模型づくり
講師：小堀文剛
(文化財保存計画協会/一級建築士)
日時：8月9日[土]・10日[日]
9:45～11:45/10:00～12:00/
15:00～16:00(午後は模型製作のみ)
会場：タワー、エントランスホール
対象：小学生～大人
参加者：111名(9日52名/10日59名)

9 こどもの絵本「こしょこしょ市」
日時：8月9日[土]・10日[日]
10:00～18:00
会場：エントランスホール
参加店：Li:ttle(水戸)
古書信天翁(東京・日暮里)
オヨヨ書林(金沢)

10 こどもインターン
ATMフェイス(館内係員)
日時：8月9日[土]・10日[日]
10:00～11:00
対象：小学4年生～中学生
参加者：6名(9日4名/10日2名)

コーヒラウンジ
日時：8月9日[土]・10日[日]
11:30～12:30/13:30～14:30
対象：小学4年生～中学生
参加者：8名(各回2名)

ミュージアムショップ
日時：8月9日[土] 11:00～12:00
対象：小学4年生～中学生
参加者：3名

11 ガラスに模様をいれよう！
サンドブラスト体験
講師：アトリエゆたか
日時：8月9日[土]・10日[日]
10:00～11:00/11:00～12:00/
13:00～14:00/14:00～15:00/
15:30～16:30(9日のみ)
会場：回廊
対象：未就学児～大人
参加者：160名(9日87名/10日73名)

12 当日参加OK!の制作コーナー
●▲■でつくる風景/工作屋台
日時：8月9日[土]・10日[日]
10:00～16:30
会場：コーヒラウンジ外側/
エントランスホール2階
対象：未就学児～大人
協力：アトリエゆたか/ふえいす・らぼ

13 小石の中から広がる世界
講師：松原容子(洋画家)
日時：8月9日[土] 14:00～15:00
8月10日[日] 10:00～11:00
14:00～15:00
会場：ワークショップ室
対象：未就学児～大人
参加者：78名(9日37名/10日41名)

14 放課後の学校クラブとの連携企画
もうひとつの学校のつくりかた
日時：8月10日[日] 11:00～15:00
会場：エントランスホール2階他
対象：未就学児～大人
協力：NPO法人水戸こどもの劇場



チラシデザイン：笹目亮太郎、助川智美(TRUNK)、イラストレーション：助川智美(TRUNK)

2014



1



2



3



4



5



6



7



8



11



9



10



12



13

1 パイプオルガン・プロムナード・コンサート 2,3 まばたきの葉をつくろう

4,5 もうひとつの学校のつくりかた 6 ミュージアムショップ 7 こどもギャラリートーク 8 小石の中から広がる世界 9 サンド
プラスト体験 10 タワー登山と模型づくり 11 こどもの絵本 こしょこしょ市 12 えんげきのいろいろ体験ワークショップ
13 ●▲■でつくる風景

2015

日時 2015年8月22日[土]・23日[日]
各日10:00～16:30
料金 小中学生800円(2日通し券1000円)
高校生以上1000円(2日通し券1200円)
展覧会 水戸芸術館開館25周年記念事業
「カフェ・イン・水戸R」

主催 公益財団法人水戸市芸術振興財団
協力 アサヒビール株式会社



チラシ表面

1 ★
ゆうくんとマットさんの
「おはなしキャリーボックス
Let's 5!」
出演:大内真智、小林祐介(劇団ACM)
日時:8月22日[土]・23日[日]
11:00～11:45/13:00～13:45/
15:00～15:45
会場:現代美術ギャラリー
対象:未就学児～大人

関連
P.62
～65

2
2日間連続 目【め】ワークショップ
「いつか見る誰かのための、
向こう側の世界」
講師:目【め】(アーティスト)
日時:8月22日[土]・23日[日]
13:00～16:30
会場:リハーサル室A、他館内各所
対象:小学4年生～大人
参加者:8名

関連
P.66
～71

3 ★
未来郵便局
作品考案者:開発好明(現代美術家)
日時:8月22日[土]・23日[日]
10:00～12:00/13:00～16:00
会場:コーヒラウンジ外側
対象:未就学児～大人
料金:1通200円

関連
P.72
～73

4
親子タウンクルーズ
ガイド:CACギャラリートーカー他
日時:8月22日[土]・23日[日]
15:00～16:00
対象:未就学児～大人
参加者:8名(22日3名/23日5名)



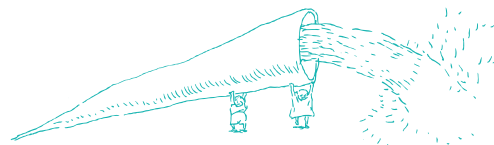
5
こどもの絵本「こしょこしょ市」
日時:8月22日[土]・23日[日]
10:00～18:00
会場:エントランスホール
参加店:Li:ttle(水戸)
古書信天翁(東京・日暮里)
オヨヨ書林(金沢)



6 ★
ふえいす・らぼ「工作屋台」
講師:ふえいす・らぼ
日時:8月22日[土]・23日[日]
11:00～15:30
会場:ワークショップ室
対象:未就学児～大人



関連
P.78
～79



7
飯塚貴士ワークショップ
「人形を作って、
オリジナル動画を撮ろう」
講師:飯塚貴士(映像作家)
日時:8月22日[土]・23日[日]
10:30～16:00
会場:ギャラリー第9室ほか
対象:小学生～大人
参加者:26名(22日15名/23日11名)
協力:寺門義典、NPO法人シネマパンチ



8 ★
放課後の学校クラブとの連携企画
「みんなでつくる
もうひとつの学校」
日時:公開準備8月22日[土]13:00～16:00
学校開校8月23日[日]14:00～16:30
会場:ワークショップ室
対象:未就学児～大人



関連
P.74
～77

9
こどもインターン
ATMフェイス(館内係員)
日時:8月22日[土]10:30～11:30
対象:小学4年生～中学生
参加者:2名



関連
P.72
～73

コーヒラウンジ
日時:8月22日[土]・23日[日]
11:00～12:00/14:00～15:00
対象:小学4年生～中学生
参加者:9名(22日5名/23日4名)



放課後の学校クラブ
日時:8月22日[土]13:00～16:00
8月23日[日]14:00～16:30
対象:小学1年生～中学生
参加者:1名(22日のみ)



●▲■でつくる風景
日時:8月22日[土]・23日[日]
13:30～15:30
対象:小学1年生～中学生
参加者:2名(23日のみ)



10 ★
柵瀬茉莉子ワークショップ
「木の葉とぬいの実験教室」
講師:柵瀬茉莉子(アーティスト)
日時:8月22日[土]・23日[日]
10:00～12:00/14:00～16:00
会場:エントランスホール2階
対象:未就学児～大人
作品展示:8月25日[火]～9月6日[日]
エントランスホール1階



関連
P.90
～91

11
タワー登山と模型づくり
講師:小堀文剛
(文化財保存計画協会/一級建築士)
日時:8月22日[土]・23日[日]
10:00～11:45/15:00～16:00
(午後は模型製作のみ)
会場:タワー、会議場
対象:小学生～大人
参加者:63名(22日30名/23日33名)



12 ★
●▲■でつくる風景
日時:8月22日[土]・23日[日]
10:30～16:00
会場:コーヒラウンジ外側
対象:未就学児～大人
協力:アトリエゆたか



13
パイプオルガン体験ツアー
講師:浅井美紀(オルガニスト)
日時:8月23日[日]
10:00～10:50/11:00～11:50
会場:エントランスホールほか
対象:小学生
参加者:33名



14 ★
パイプオルガン・プロムナード・
コンサート 夏休みスペシャル
演奏:浅井美紀、西岡崇(オルガニスト)
日時:8月23日[日]13:00～13:50
会場:エントランスホール



2015



56 1 ゆうくんとマツさんの「おはなしキャリアボックスLet's 5!」 2,3 いくつか見る誰かのための、向こう側の世界 4 親子タウ
ンクルーズ 5 未来郵便局 6,7,8 人形を作って、オリジナル動画を撮ろう

9,10 木の葉とぬいの実験教室 11 みんなでつくるもうひとつの学校 12 ATMフェイス 13 ●▲■でつくる風景 14 パイプ
オルガン体験ツアー 15 コーヒーラウンジ 16,17,18 タワー登山と模型づくり



木片から木琴へ 「世界でひとつだけの」楽器たちが奏でた カラフルな音色

音楽部門学芸員 高巢真樹

木琴奏者の通崎睦美さんにご協力いただき、2016年は「世界でひとつだけの木琴を作ろう!」を開催しました。通崎氏は、2013年に著書『木琴デイズ 平岡養一「天衣無縫の音楽人生」』で吉田秀和賞*1を受賞、2016年7月にはコンサートホールATMの人気シリーズ「ちょっとお昼にクラシック」*2にも出演しました。この素敵なご縁をさらに発展させる形で、今回のプログラムが実現することになりました。

当日は通崎氏が、世界各地にはさまざまな音階が存在するというお話



ちょっとお昼にクラシック 通崎睦美の木琴デイズ
2016年7月23日[土] 会場：コンサートホールATM
出演：通崎睦美、鷹羽弘晃

くださり、「今日はそれぞれ、好きな音階に調律した木琴をつくってみましょう」という声かけで作業が始まりました。しかしこの調律作業、なかなか一筋縄で



絶対音感をもつスタッフと音合わせ

はいきません。金槌と釘で土台となる木箱を組み立てたあと、鍵盤となる木材を切るところが勝負どころです。自分が望む音高になるよう、ノコギリで木材を少し切っては叩き、音を確認する作業の繰り返し。参加者の表情はまさに真剣そのものでした。ようやく音階ができたらし鍵盤を並べ、思い思いに楽器本



できたての木琴の音色が響きわたる

体に絵を描いたところで、オリジナルの木琴の完成です。

夕方には皆でホールへ移動し、できたての木琴の音色を披露する「お披露目会」を開催しました。通崎さんをはじめ、プログラムをサポートしてくださったパーカッション奏者の飯野晶子さん、小山理恵さんと共に、参加者全員で即興アンサンブル。シンプルな木片だったものが、さまざまな調性、琉球風、あるいは独自の音列に整えられた木琴へと生まれ変わり、心がほっこりする音色で、生き生きと合奏が繰り広げられるさまは、まるで魔法のよう。終演後、子ど

もたちの達成感に満ちた笑顔が印象的でした。

またこの企画は、美術部門や舞台技術係など、部門を越えたチームワークを発揮して行ったことも特筆すべき点です。音に関わるのが得意な人、木工が得意な人、人に教えるのが得意な人など、それぞれの専門分野やネットワークを存分に活用したことが、このプログラムの成功につながりました。

*1 水戸芸術館初代館長・吉田秀和氏の名を冠し、優れた芸術評論を発表した人に贈られる賞(1990年創設)

*2 午後のひととき、低料金で一流のアーティストの演奏とお話を楽しめる1時間のコンサート

舞台とアートと子どもたちをつなぐ —演劇部門と「こども・こらぼ・らぼ」—

演劇部門学芸員 菊池広子

演劇部門が「こども・こらぼ・らぼ」に初めて参加したのは、東日本大震災の影響で水戸芸術館が一時休館となっていた2011年。ACM劇場の専属劇団ACMは、劇場から水戸の街なかを舞台に変え、さまざまな催しを行っていました。そんななか、夏休みに子どもたちがアート体験できる企画に声をかけていただき、演劇部門からは劇団ACMメンバーを中心とした2つのプログラムで参加することになりました。

1 親子のためのバックステージツアー 「やってみる? 劇場」(2011~2014)

普段なかなか目にすることのない舞台の裏側を楽しくのぞき見してもらうとともに、舞台に関わるさまざまな仕事を体験してもらうプログラム。舞台裏を探索した後、俳優・照明・音響のグループに分かれ、短いオリジナルの台本を基に、専門のスタッフから指導を受けて練習。最後にはお芝居の本番を行い

ました。2013年には「音の達人」と題し、舞台の効果音を昔ながらの方法でつくってみるプログラムも行いました。演劇部門では2011年当時、親子で参加（観劇）できる事業が少なく、関わった人たちがその後の事業に活かせる材料を貰えた刺激的な企画となりました。また参加者にとっても、日常とは違う舞台芸術の楽しさに直に触れ、劇場に足を運ぶきっかけとなってくれたように思います。



専門のスタッフから音響機材の操作などを教えてもらう



さまざまな素材や道具を使って効果音を手作りする

2 ゆうくんとマットさんの おはなしキャリーボックス

(2011~2016)

震災の爪痕が残る水戸の街で子どもたちに笑顔届けようと劇団ACMの大内真智、小林祐介が結成したのが、絵本の読み聞かせユニット《ゆうくんとマットさん》です。オリジナルの手遊び「ぱー・ぐー・ばら・2・TAN・ドン!」から始まる読み聞かせは子どもたちに人気となり、こらぼらぼでは2011年から6年連続で参加しています。《ゆうくんとマットさん》は個人の活動として始まったユニットでしたが、こらぼらぼの参加をきっかけに、ACM劇場で絵本を舞台化した公演を行うようになり、毎

年春に新作公演を行っています。こらぼらぼの参加者が舞台の観客になり、舞台の観客がこらぼらぼに参加する…という嬉しい循環が起こり、回を重ねるごとに動員数を増やしています。



舞台「くものすおやぶん とりものちょう」(2016年)

Interview

ゆうくんとマットさんが語る
こらぼらぼ よもやま話

——参加したきっかけは？

マットさん（以下M）：震災の後、僕ら二人で近くの幼稚園で絵本の読み聞かせをしていたとき、こらぼらぼに参加しないかと声をかけてもらいました。美術部門のスタッフやフェイスさんなど、絵本好きな大人たちがたくさんいたので、そういう方たちとコミュニケーションをとりながら活動を深めていくのも面白いかなと思って。それが参加のきっかけです。

——参加してみてどうでしたか？

M：最初の年はいろんな展示作品があって、僕らの読み聞かせと作品とをどういう風にコラボしていくかを考えるのが大変だったけど楽しかった！

それと、ボランティアさんやいろんな人たちが関わっていて、サポート体制がす



ボランティアの堀江宏子さん作のラグ

ごくしっかりしているよね。読み聞かせで子どもたちが座るラグを手作りでつくってくれたり！

ゆうくん（以下Y）：幼稚園の園児の前でだけやってきたことを初めて一般のお客さんの前でやったということが、その後ACM劇場の舞台で公演をやる第一歩になったよね。

M：そう、それまでは舞台でやるとか考えていなかったけど、ギャラリーという大きな空間でやらせてもらったことで、ホームである舞台でもやってみたいと思うきっかけになったかも。

——思い出のエピソードは？

Y：やっぱり2年目の「水戸岡鋭治の鉄道デザイン展」のときかな。読み聞かせの最中、電車が通る音がぴゅー！シュッシュッシュッと(笑)。

M：僕ら生声で行っているから、電車の音には絶対勝てない(笑)。しかもタイミングがランダム(笑)。

Y：あとはバルーンかな。子どもたちに喜んでもらおうとマットさんが風船で剣とかつくってあげたら、読み聞かせより

そっちがメインになっちゃって。しかもそのバルーンで展示作品を叩く子が続出するという(笑)。^{*}

M：嬉しいこともすごたくさんあったよね。例えば、2013年に「みんなde絵本をつくろう!」というプログラムをやった時は、事前におうちで絵本をつくってきてくれた子がいたり。あと、読み聞かせの場所を移動するときにイーゼルやラグなどの荷物を運ぶんだけど、子どもたちが自然と自ら手伝ってくれるんだよね。思い出は数えきれないくらいあるね。



鉄道車両のシートに座って



読み聞かせ道具を運ぶ子どもたち

——6年間参加してみての感想は？

M：僕らのスタイル自体は変わっていないのに、展示が変わるから毎回新鮮に取り組める。

Y：僕らに会いたくて来てくれる子が年々増えているのが、本当に嬉しいよね。舞台は僕らからの発信だけど、こらぼらぼは双方向的な場だから、舞台とは違ったコミュニケーションがとれるしね。

あと、こらぼらぼで作品を読むことによってイメージが広がって、それが次の舞台のアイディアの源になったり。そういう意味では、実験の場にもさせてもらっているし、鍛えられている感じがする。

M：僕は反省会も結構楽しくて、いろんなアーティストさんやスタッフさんのやっている事や考えを見たり聞けたりするのが面白くて刺激になったり…「こども・こらぼ・らぼ」って言いつつも、関わっている大人が成長させてもらっている気がする。

——これからやってみたいことは？

M：僕ら、読み聞かせをしていると、他の企画に参加できないんだよね…。

Y：そう！合間に参加しているけどね。かき氷とか、ダイダラボウとか楽しかったなあ。

M：結局僕たち、子どもたちと楽しみたいだけなのかも(笑)。子どもたちと一緒に読み聞かせをしてみるって企画、やりたいな！

Y：稽古をして、お父さんお母さんやお客さんに発表を見てもらおうっておもしろいかも。

M：やりたいことまだまだいっぱいあるので、こらぼらぼ、ずっと続けてほしいな。

^{*}作品保護のためスタッフが必死に止めています

終わることのないワークショップ 「いつか見る誰かのための、向こう側の世界」

現代美術活動チーム 目【め】(南川憲二、荒神明香、増井宏文)

「カフェ・イン・水戸R」展(2015) 出品作家インタビュー

「作品」って誰にむけてつくられているんだろう。もし、みてるお客さんのためだったら、もっとわかりやすくなってくれたっていいんじゃないか。もし、作者のためだったら、わざわざみんなにみせなくてもいいんじゃないか。そんな、「作品のありか」に頭をめぐらせながら、誰かがとってもドキドキしながらみるかもしれないし、永遠に誰もみないかもしれないところに作品をつくってみる。水戸芸術館の、知られざる謎の扉(もしくは場所)の中に、いつか誰かが扉を開いた場合、誰もあけなかった場合を想定した作品を創造する。扉は開けられる可能性と開けられない可能性の両方を持っている。さて、子どもたちはどうするだろう？

(目【め】によるチラシ原稿案)

——ワークショップはどんな流れ、内容でしたか？

南川(以下M):1日目は自己紹介、テーマ発表、水戸芸術館の知られざる場所を見学、作品のプランニング、目【め】(以下、目)の展示中の作品を見学。2日目は作品制作、作品展示、展示したものについての発表、という流れでした。あらかじめ選ばれた水戸芸術館内の大小さまざまな扉を探検のようにめぐり、各自が自由に制作した作品をそのどこかの扉の中に設置しました。誰かが偶然その扉を開くかもしれないし、あるいは



目のメンバーと参加者



バックヤードの扉めぐり

開かない可能性もある未来の両義性を含ませた作品なので、設置のときは誰にも見られてはいけないというルールでした。作品は今も水戸芸術館のどこかに存在しています。どこに何を置いたのかは、これからも永遠に明かされない秘密としてそれぞれが持って帰るようになりました。また、居合わせた目のメンバーも水戸芸術館のスタッフもその秘密をずっと守ることを約束しています。

——印象に残っている出来事がありますか？

M:たくさんありますが、やっぱり参加した子のひとりが、徹底的に誰にも見られないようにホワイトボードやダンボー

ルで囲いをつくって、その中で作品をつくり、本当に最後まで彼のつくったものを誰も見ないまま水戸芸術館の知られざる場所へ展示してしまったという行動が最も印象的でした。はじめはただ隠れてしまって「モチベーションが上がらないのかな…」と心配だったのですが、



秘密の作業場

僕が勘違いしていたのです。真剣に考え込んでいたんだと気が付いた時は驚きました。そこに至るまで本人と向き合い続けた、目の増井の姿勢もリスペクトしました。

ワークショップ実施までの仕事の流れも印象に残っています。まず僕と荒神が水戸芸術館の担当者とのやりとりの中でテーマをみつけ、それに皆で真っすぐに向かえたワークショップだったと思います。ワークショップの合間のスタッフミーティングの時には、参加者の活動の状況を詳しく共有し、それぞれの参加者に沿ったかたちで自分たちの役割を考えました。僕がテーマを全体に伝える係。増井がキーとなるような参加者と向き合ってムードをつくる。荒神がテーマのエッセンスの部分を掘り下げる。目のスタッフの牛山は主体的に参加者がテーマと向き合えるようにアシストしてゆく。それらを水戸芸術館のスタッフがうまくサポートしてくれて、皆で作品

に向かうクリエイティブな空気感が生まれていたと思います。

——このワークショップには展示中の目の作品《レプリケーショナル・スケーパー》と重なるテーマがありました。その点についてはいかがでしょうか？

M: 僕たちの展示していた作品の入り口も、普段なら見逃してしまうような小さな消火栓の扉でした。気付かずに通り過ぎる観客もいました。扉からその中に入ると、ずっと前からそこにあったような空間が広がり、人の気配と秘密の活動がなされているような手がかり、痕跡があちこちにあります。鑑賞者が「気づき」を得ることで徐々に現実の世界が変質していくような感覚、主観に介入することを重要に考えて制作した作品です。この作品の大切なポイントは鑑賞者の「気づき」と「見逃し」です。

今回のワークショップでは、切っても切れない両者について、より極端に向き

合うことになったと思います。

——今回のワークショップは永遠に終わりが訪れない性格のもんです。ワークショップが終わってから1年半が経とうとしていますが、振り返ってみて今はどのように思っていますか？

荒神（以下K）: 今でも時々思い出します。ワークショップとして思い出すこともありますが、小さな扉を見かけた時に、不意に思い出すこともあります。そんな時に、扉の向こうでワークショップに参加した人たちと繋がっているような気分にもなります。もう二度と辿り着けないような彼方でありながら、とても具体的な場所でもあり…。そのことについては未だに考えさせられます。

——子どもたちとの制作活動は作家に何かをもたらしますか？

K: 子どもたちは、いつも思いがけない行動や、予期しない発言をするので、私は驚いたり、ハラハラしています。でも、同時にそれがどこか共感できてしまっているところに引きつけられます。言葉や経験を共有していなくても、とても大事なことが伝え合えるということの可能性にみんなで挑戦しているような気持ちになります。

M: 8年くらい前…、とあるワークショッ



作品をこっそり配置

プで5年生くらいの子に、作品は「誰かがそうした」と思ったらおしまい、「何で?」と思わなきゃいけない!と大事なことを教わったことを思い出しました。自分にはない創造力を感じて、役割というか、信頼というか、本気で一緒に作品をつくれるぞ!と思いました。

子どもたちとの活動では、僕たちがめっちゃアートが面白い!と思っていることを伝えられたらいいなと考えています。



作品設置に出発



《レプリケーショナル・スケーパー》(2015) 入口



《レプリケーショナル・スケーパー》(2015) 内部



ATMフェイスと「こども・こらぼ・らぼ」

総務係員 ATMフェイス担当 来栖るり子



私の仕事は、館内係員であるATMフェイス（以下フェイス）の日々の仕事を管理することです。勤務日の調整や研修、展覧会や公演でフェイスが留意する点をまとめたマニュアルづくりなど、フェイスに関わるあらゆる仕事をしています。

美術部門から「こども・こらぼ・らぼ」でフェイスを体験するプログラムが出来ないかと、話をいただいてから6年間毎年行っています。

プログラムは大きく分けて基礎編と実践編の二つがあります。

1. 基礎編 立居振舞いや表情の作り方などを説明しながら、現役フェイスにお手本を示してもらいます。

① 立居振舞い

立ち方、座り方、お辞儀の仕方を練習します。普段は考えずに立ったり座ったりしているので、いざ美しく見えるようにと言ってもすぐ出来ません。コツはおなかとおしりに力を入れて背筋を伸ばし

てすっと立つこと、座る時はすぐ立てるように浅く腰掛けること。お辞儀も背筋を伸ばしたまま腰から折れるようにするとうまくできます。

② 表情

頬の筋肉を上げるように、柔らかな表情が出せるようにマッサージをしながら笑顔を作ります。自然に出るようになったら◎。

③ 挨拶

「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」は水戸芸術館の仕事に欠かせません。後半の実践編ではお客様と接するので、きちんと身につけます。

④ タワーのナレーション

実践編ではタワーのエレベーターに乗ってお客様を案内するので、ナレーションを練習します。普段のナレーションは子どもには難しい言葉が入っているので、特別に易しい言葉の原稿を用意します。言葉を発する時に大切なのは、ゆっくりはっきり発音すること。お友だ



ナレーションの練習中

ちに話す時は小さな声でも早口でも良いですが、初めて出会うお客様は何て言っているのか分からないことがあるからです。

⑤ 制服のスカーフを身につける

いよいよフェイスになりきります！参加者には白いシャツと黒や紺のスカートかパンツで来てもらっているので、スカーフをつけた途端に子どもフェイスの誕生です。スカーフをつけた時の子どもたちの表情は、照れくさいような嬉しいような、でも最後にはみんなニコニコして鏡を覗きこんでいます。

2. 実践編 タワーやギャラリーで実際にお客様と接します。

① タワーのご案内

お客様とタワーのエレベーターに乗り、ナレーションを読み上げます。お客様に分かりやすく、内容が伝わるよう心掛けます。

② ギャラリー入り口でのお客様の対応

チケットを預かりスタンプを押して、ギャラリーマップを渡します。お返しするチケットやマップはお客様に正面が向くように気を付けて渡します。

①と②は途中で交代して、どちらも体験します。

子どもたちは、最初は緊張して硬いですが、慣れてくると自然と笑顔がこぼれてきます。それはお客様が喜んでくださっているというのが分かるから。「ありがとう」と言ってもらえることが、とても嬉しいことだと気づくからだと思います。

6年間継続していると、「お姉ちゃんが参加していたのを見ていて、私もやりたいと思った」とリピートしてくれた姉妹もいます。スカーフをつけてフェイスになりきって、芸術館でお客様と接することの楽しさが連鎖する夏休み！このまま継続すれば、「子どもの頃、フェイス体験をしました」というフェイスが出て来るかもしれません。

スカーフをつけた子どもフェイスたちと廊下ですれ違った女性学芸員が、「私もスカーフをつけてみたい!」と言っていました。前々から思っていました、「おとな・こらぼ・らぼ」もあればいいのに。大人の夢も叶えて、一日芸術館で楽しんでもらえたらもっと芸術館が好きになるかも。

オーガニックなアートプロジェクトと 美術館の新しい関係

—《放課後の学校クラブ》と「こども・こらぼ・らぼ」の連携から—

美術家 北澤潤

ことの始まり

アートプロジェクト《放課後の学校クラブ》のアイデアは、2009年に描いた1枚のスケッチからはじまっている。見たことのありそうな学校建築とその敷地を囲う柵の中に、まるで教室や倉庫から運び出されたかのような黒板と机、グランドピアノに跳び箱、時計、さらに保健室までも描いて真ん中に集寄せた。

ちょっと大きな青空教室のようにも見えるが、わざわざ学校を取り囲う柵までも描き加えているあたりに、既存の学校の要素を用いながら「もうひとつの学校」をつくりだすことで、教育制度やそこで過ごす(過ごしてきた)私たちの関係を脱構築する、プロジェクトのコンセプトを表現したつもりだ。



《放課後の学校クラブ》コンセプトスケッチ(2009年)

このイメージは、水戸市立浜田小学校の余剰教室を「コミュニティルーム」として活用し、地域活動に開放する「コミュニティスクール」という取り組みと出会ったことで現実化していく。突如告知された「学校をつくろう」という呼びかけに、どこか惹かれた子どもたちや大人たちが集まり、上下関係のない「部員」同士となって、「そもそも学校って?」と真面目に話し合うことから、少しずつ「もうひとつの学校づくり」が始まっていった。最初の「学校」は、近くの商店街にあったブティックの定休日にその駐車場を借りて「開校」。2011年12月18日のことだった。この日のために準備をしてきた小さな部員たちは「先生」となり、訪れた人びとは「生徒」となって、不思議な「学校」の時間を共にした。



商店街の片隅で開校したはじめての「放課後の学校」

学校づくりの広がりやマンネリ

手探りではじまった私たちの学校づくりは、少しずつだが確かにその活動を広

げていった。浜田小学校のすぐ裏にある児童公園を敷地に使ったり、地域の裏山で大きなピクニックのように「学校」をつくってエンジョイしたり、商店街で地域のお祭りしながら「授業な縁日」を立ち上げたり。原点のスケッチに立ち返って、グラウンドに「学校」を出現させたりもした。

数々の苦難を乗り越えて、自分たちにとっての「学校」を創作しつづけてきた子どもたち。創造的な経験を繰り返してきた一方、慣れてきたことで「もうひとつの学校」の出来上がりが想定できるようになり、そのイメージに当てはめて内容を考えるというマンネリ化も生じてきた。活動が地道に継続してきたからこそ起きる現象ではあるが、純粋なオルタナティブであったはずの「もうひとつの学校」が、時と出現回数を経て、まるで本当の学校のように制度化されてきてしまったと捉えることもできる。そんな頃だ。水戸芸術館の夏休み企画「こども・こらぼ・らぼ」に《放課後の学校クラブ》が参加することになった。

「こらぼらぼ」がもたらした再活性

2013年夏、《放課後の学校クラブ》は過去最大規模の「学校」をつくった。水戸芸術館の屋外広場全体を使った「すぐろく学校」である。さまざまな指令を



「こども・こらぼ・らぼ」で実現した「すごろく学校」

課す青と白のマス目が全体を縦横に走り、そのところどころに絶対止まらなければいけないマスとして「授業」が点在する。「学校」がもつ要素を解体し、「遊び」の素材として使い直す、「すごろく」と「学校」のシンプルな掛け算。実に《放課後の学校クラブ》らしいこの発想は、部員同士のディスカッションによって生まれたものだった。準備期間中、部員たちがどこか浮足立った高揚感に包まれていた理由は、こらぼらぼをきっかけに活動や部員の関係性がひらかれていったからにちがいない。まず、それまでの「学校」は浜田小学校の学区内で開校してきたが、水戸芸術館での学校づくりに取り組むこと

によって、「あらゆる場所が敷地になりうる」と活動に対する私たち自身の認識と可能性が拡張された。また、水戸芸術館での開校に向けて市内全域の全小中学校に対して参加者の募集がかけられ、これまで浜田小学校の生徒たちが中心だった部員の門戸が一気にひらかれた。「学校づくり」という特殊な経験を重ねてきた古参の部員たちは、新参者の中学生や手伝いに訪れた大学生たちに臆することなく、「学校づくりのツボ」でも語っているかのように対等な会話を交わしていた。ここから感じ得るのは、《放課後の学校クラブ》のように地域に根ざし持続性や主体性を重んじる、言わば「オーガニックなアートプロ

ジェクト」に対して、その土壌を再活性化することでマンネリズムを解消し活動を昇華させる、「美術館」という場の動的な可能性だ。

曖昧になる「子ども」と「大人」

「すごろく学校」以降、《放課後の学校クラブ》は浜田小学校のコミュニティルームを「部室」に活動の続けながら、毎年夏の恒例行事として水戸芸術館に出張し、こらぼらぼとの連携を続けている。2014年には、「もうひとつの学校のつくりかた」と題して、《放課後の学校クラブ》のノウハウが凝縮された「教科書」を用いながら、部員たちによる授業のデモンストレーションや、「学校」のアイデアを考えてみるワークショップを実施。2015年にはギャラリー内のワークショップ室、2016年には屋外の回廊を舞台に「学校」を開校した。その都度部員たちは、訪れる人びとと一緒に真夏の学びを遊び尽くしている。「こども・こらぼ・らぼ2016」のチラシでは、《放課後の学校クラブ》との連携企画の紹介文に、「講師：放課後の学校クラブ子ども部員」と掲載さ

れていた。ついに小学生の部員たちは、「先生」に留まらず「講師」にまでなったのだ。全15企画の講師ラインナップは実に多彩だが、他はみな大人だ。実際に、水戸芸術館の中に現れた「学校」に出くわすと、誰が「教える側」で誰が「教わる側」かすぐには分からず、子どもたち同士が学び楽しみあっている姿がただ目の前にある。手前味噌にはなるが、これほど「こども・こらぼ・らぼ」な状況があるだろうか。《放課後の学校クラブ》との連携が、このプログラムの未来像をささやかに先取りしているのだとしたら、素直に嬉しい。因みに、その状況に居合わせた我々大人たちはどう振る舞うのが正解だろうか。きっと、普通の学校での生徒たちが、「もうひとつの学校」で「先生」という大人に変身するように、私たちは逆に「大人らしさ」を一度捨て、「子ども」になってコラボしてみるのも悪くない。



講師になって《放課後の学校クラブ》の説明をする子ども部員たち

制服づくりから始まった 共有する楽しみ

ATMフェイス/ふえいす・らぼメンバー
福井彩香



「ふえいす・らぼ」は、2014年に現代美術ギャラリーで開催された「拡張するファッション」展の制服をつくるワークショップをきっかけに発足しました。そこで手仕事をする喜びと、互いの技術やアイデアを共有する楽しさを知りました。その後も続けたいと、定期的に集まって手芸をしています。

「工作屋台」では、毎年2〜3つのプログラムから好きなものを選ぶようにしています。

1年目は布を使ったプログラムを企画しました。アクセサリー・くるみボタンつくりと、エプロンにお絵かきをする2つ

のプログラムです。アクセサリー・くるみボタンは、制服ワークショップで取り入れた手法で、アクリル絵の具で染めた布を自由に裂いてつくりました。エプロンは白い布で縫い、布用クレヨンを用意しました。

2年目はメンバーが日頃作品づくりに使っている材料、PPシートのアクセサリーづくりと石塑粘土のブローチづくり、ストローを使ったヒンメリ（フィンランドの伝統的な装飾品）づくりを行いました。PPシートのアクセサリーは、半透明なので夏らしい涼しげなものができました。また、このプログラムをきっかけに始めた石塑粘土のブローチは、私たちもたびたびつくっています。ヒンメリは男の子に人気で、独自に発展させ長時間かけて大作を仕上げた子もいました。私たちは大まかなプログラムは用意しますが、準備された材料で何をつくっても自由です。子どもの想像力や年齢に合わせて応用が利くような幅を持たせています。



完成した制服は展示期間中に着用した

3年目はビニールテープ、ストロー、毛糸など家庭にあるものや簡単に手に入るものを使って工作を行いました。材料は家庭にあるものや、容易に手に入るものばかりです。身近なものを別の使い方で利用することで新たな発見があればと思います。そして、「この場でしかないワークショップ」で終わらせずに、家や学校でも発想を広げてまたつくってもらいたいです。

メンバーには育児経験者も多く、母ならではの発想で針を使わないなどの安全面を考慮したり、メンバーのお子さん

に試作してもらい、対象年齢や難易度、制作時間を検証したりしました。中には美術部門の教育プログラム「プレ・スクール・プログラム」*を担当する者もあり、子ども向けワークショップの経験も役に立ちました。

この企画への参加は、「ふえいす・らぼ」の活動の張り合いにもなっています。メンバー間の関心事をシェアする機会となり、美術部門との意見交換により新しい着想が得られ、よりグループの活動を発展させることができています。

*幼稚園・保育園の年長クラスを対象とした鑑賞ソアと造形ワークショップ体験



制服をつくるワークショップをきっかけに発足



関心事をシェアしながら活動は今も続く



かわいらしい材料は毎回子どもたちに大人気



2014年のエプロン制作の様子



こども・こらぼ・らぼ雑記帳

Interview

参加者から聞きました！

興野ひなたさん(小5)、あかりさん(小2)、
明子さん(母)

よく顔をお見かけする仲良し親子の興野さんご
家族にお話を聞きました。

Q いつ頃から参加されていますか？

明子さん(以下A)：2015年から2年間参加して
います。

Q どんなプログラムに参加されました
か？

A：2015年は「人形を作って、オリジナル
動画を撮ろう」「木の葉とぬいの実験教室」、
2016年は「ダイダラボウの鼻ちょうちん」「世
界でひとつだけの木琴を作ろう!」「100gを
つくろう!」です。



ワクワクがいっぱい！



左から興野あかりさん、ひなたさん、お母さんの明子
さん

Q 参加したいと思ったきっかけはなんで
すか？

A：子どもが絵を描いたり粘土でつくったり
することが好きだったのと、チラシを見て楽し
そうだったので参加しました。
2016年は昨年が楽しかったので参加しまし
た。チラシの文章を読んで、ワクワクするプ
ログラムを直感で選んでいます。

Q 印象に残っているプログラムとエピソードを
教えてください。

あかりさん：「ダイダラボウの鼻ちょうちん」
は、中に入れるとは思っていませんでした。
中では暗くなったりキラキラしたりして宇宙に
いるみたいでした。

ひなたさん：「世界でひとつだけの木琴を作
ろう!」で作った木琴は、家で時々弾いてい
ます。普段、演奏することのできないコンサ
ートホールで発表会ができたのもよかった
です。

(2016年12月5日、電話にてインタビュー)

自分そっくりにできた！



鈴木薫さん

鈴木薫さん(小6)、由美子さん(母)

赤ちゃんの頃から水戸芸術館にいらしているという鈴木薫さ
ん(小6)とお母さんの由美子さん。こらぼらぼの6年間は、
薫さんの小学生時代にちょうど重なります。毎年のように
来てくれる薫さんにお話を聞きました。

Q 毎年参加してくれてありがとう。
今まで参加したワークショップを覚え
てますか？

薫さん(以下K)：劇場では俳優を2回やりまし
た。子ども天狗になって大きいうちを振っ
たり、宇宙船の乗組員の役もやりました。^{*1}
あとは小さな人形をつくり、動画をつくる体
験。^{*2} それから●▲■のシールで絵をつくり
窓に貼りました。^{*3} 今年はきれいな色のテー
プでバッグをつくったり^{*4}、ゆうくんとマット
さんのツアーに参加しました。^{*5}

Q 参加した中で印象に残っていること
は？

K：粘土で遊ぶのが好きなので、人形で動画
をつくったのが面白かった。粘土の人形は自
分そっくりにつくりました。

Q 名前はあったの？

K：名無しのごんべい、という名前です。

Q 参加し始めた1年生の頃と今とでは感
じ方は違うかな？

K：おもしろいものはいつもおもしろいです。

*1 やってみる?劇場シリーズ(2011~2014)
*2 人形を作ってオリジナル動画を撮ろう(2015)
*3 ●▲■でつくる風景(2014~2015)
*4 工作屋台(2014~2016)
*5 ゆうくんとマットさんの「お話トラズベル」(2016)

Q 印象に残っている人はいますか？

K：人形と動画づくりの飯塚先生。^{*2} あと、
ひまわりちゃんという人形をつくっていたお兄
さん。どちらもとても優しい人でした。

Q こらぼらぼでやったらいいおもしろい
アイデアはありますか？

K：水戸芸術館全部にミニSLを通す、それ
から、巨大折り紙の企画!あとは、中学生で
も楽しめるツアーがあったら参加したいです。

Q ありがとう、中学生になっても来てくだ
さい。お母さんから何かありますか？

由美子さん(Y)：動画づくりは特に楽しかっ
たようで、また参加したいそうです。それと
ACM劇場の舞台裏が見られたのも毎回楽し
かったです。あと、こらぼらぼの時に限ら
ず、コーヒラウンジの皆さんがいつもほん
とに優しく心に残っています。今まで芸
術館には親子で来ていましたが、これからは
お友だちと来るようになるのでしょうか。

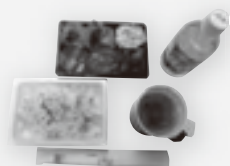
Q 今度はお母さんもお一人でぜひお越し
くださいね。

Y：あ、そうですね。気付かなかったです。

(2016年12月15日、電話にてインタビュー)

現場を支える人たち

たくさんの人に支えられている「こども・こらぼ・らぼ」。
その中から一部の方たちを紹介します。



スタッフのエネルギー源！



いつもありがとうございます！
ございます！

お弁当は名前を
書いてから
持って行ってね！
(キリッ)

芸術館そばのお惣菜屋
「ぼう乃」の廣木幸江さん



CAC ギャラリートーカー*1
笠原安子さん

スタッフのオアシス、お弁当コー
ナーを仕切ります。



ゆうちゃんとマツさんのラグは、
私が作ったんですよ



クレープ屋さんは
私がリクエストしました！

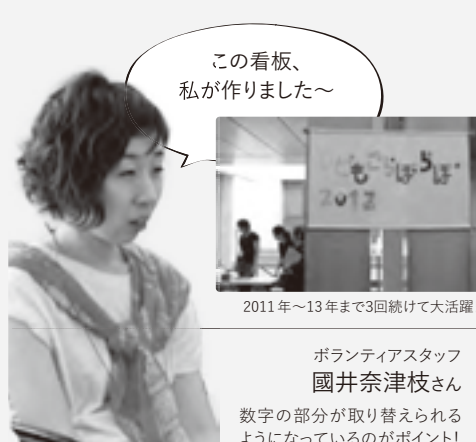
教育プログラムの常連参加者
堀江宏子さん

中綿入りで、ギャラリーの硬い床
でも快適♪

ボランティアスタッフ
(元美術部門学芸アシスタント)

小竹森由香さん

甘いものが大好きで、参加者にも
ぜひ食べてほしいと勧めてくれま
した。(2013 年に出品)



この看板、
私が作りました～



2011 年～13 年まで3回続けて大活躍！

ボランティアスタッフ
國井奈津枝さん

数字の部分を取り替えられる
ようになっているのがポイント！



はあ～
もう本当に
毎回たのしいです！

ボランティアスタッフ
車田彩香さん

パステル画、工作屋台 etc.
こまかい作業はおまかせ！



ね～、もう1個
作っていい～？

こしょこしょ市参加の
「Little」店主の長男
道一くん
作って遊んで、ときどき店番。



私もたくさん
作っちゃった♪

CAC ギャラリートーカー
萩野谷明子さん

担当するプログラムにすっかりは
まって、自分でも沢山作ってしま
います。



お弁当係は大事よね。
…えっ、会場見てきて
いいの？

CAC ギャラリートーカー
川野辺幸子さん

スタッフとして働くのと同じくら
い、プログラムに参加するのも
好き。



大丈夫だいじょうぶ！

教育プログラム補助スタッフ
CAC ギャラリートーカー
本間未来さん

申込みのとりまとめ、道具のチェ
ック、当日の現場、片付け等々な
んでもこなします。



この作品はね…
(おもしろい話を小さな声で)

幼稚園教諭(元 ATM フェイス)*2
寺門由江さん

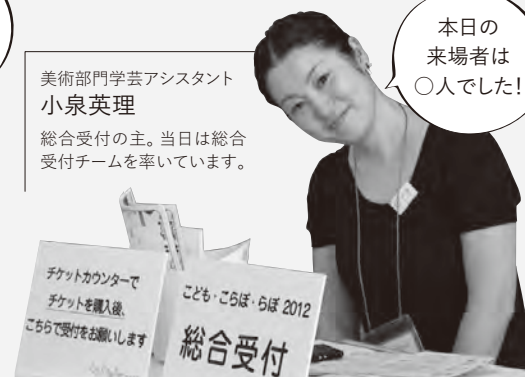
「こどもギャラリートーク」では小
さなお客さまの心をグッと惹きつ
けました。



いいね～。
よくできてる！

美術部門グラフィックデザイナー
石井一十三

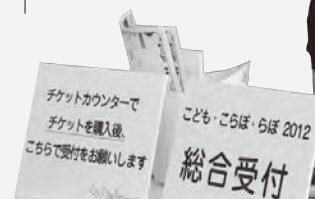
看板やパナーなどに会場に飾る印
刷物をせっせと作ります。



本日の
来場者は
〇人でした！

美術部門学芸アシスタント
小泉英理

総合受付の主。当日は総合
受付チームを率いています。



*1 CAC ギャラリートーカー：ギャラリートークを専門に活動する市民ボランティア。こらぼらぼの時は、有志のスタッフが手伝います

*2 ATM フェイス：来館者の案内・誘導や館運営に関わる補助的な業務を行う館内係員

美術部門 展示スタッフ
通称「廣川組」

初めて手伝うボランティア
スタッフにも親切丁寧。皆
で和気あいあいと働いてい
ます。

プロジェクター？
セットしてあるよ。
布 吊りに行ってくるねー。

大森宏一

廣川隆史

増井彰子

寺門陽平

カメラマン

同時進行のプログラムを分
担してスマートに撮影。終了
後は休む間もなく撤収の手
伝いも！

次は、
このプログラムを
撮影するね！

じゃあ僕は
違う場所を撮ります！

根本譲さん

山崎宏之さん

余っていたのが
役に立って
よかったよ〜

現代美術ギャラリーの貼り文字職人
アトリエゆたか
樋口裕さん
「●▲■でつくる風景」にカラフル
なカッティングシートをたくさん提
供してくれました。

シートの切れはしを有効活用

映画の
おもしろさを
伝えます！

まだ何か
お手伝いすること
ありませんか？

NPO 法人シネマパンチ*3
寺門義典さん
活躍中の映像作家と水戸芸
術館をつないでくれました。

2015年度博物館学実習生
宮崎彩さん
社会人になった翌年も手伝い
にきてくれました。

俺のやりたい企画は
「暴れん坊になろう」だ！

部長 杉山琴美さん

副部長 佐々木空くん

もうひとつの学校へ
ようこそ！

放課後の学校クラブ
2013年から毎年こらばらば
に参加しています。

部員 市川寛也さん

水戸芸術館
常務理事

こらばらばでチャンバラごっこを
するのが夢だそうです。

こども・こらぼ・らぼ・じけんぼ

6年間、スタッフが現場で見聞きした、大さわぎ小さわぎ、こぼれ話をお届けします。

2013年8月11日「すごろく学校」にて 猛暑日とゲリラ豪雨

その日はものすごく暑い日でした。ジリジリ照りつける日射しのなか、芸術館の広場をめいっばい使った「すごろく学校」は無事オープン。巨大すごろくはマス目それぞれが教室になっており、参加者は人間コマとなり、たどり着いたマス目にある授業をクリアしていきます。そろそろゴール=卒業!という頃…なんだか雲行きが怪しい。雨雲で空がどんどん暗くなってきた。雷の音も聞こえる!「これはマズい!」と



途中までは晴れていました



急いで片付けています

スタッフたちは終了時間を早めて、大急ぎで撤収開始。お客さんを帰し、広場から軒下に道具を運び入れるやいなや大豪雨。セーフ! (どれくらいの大豪雨かというと、水が溢れて建物の中に入りそうなのを、大勢の職員が水かきして食い止めていたくらい。想像できますよね?) 「熱中症の人もずぶ濡れの人も出なかったのが奇跡」と言われるほど、伝説の「すごろく学校」です。

「今日は1日、サンドブラストの箱の中しか見ていない…」

ガラス製品に好きな模様が入られるサンドブラスト体験。

予約の受付が始まると、ガラスの涼しげなイメージが効いたのか定員を大きく上回る申込みが。それに加え、中学生のグループも受け入れることになってさあ大変。

急遽、サンドブラストの機械を追

加購入し、2台体制で臨むことに。特に2日目はスタッフが少ないなか、現代美術ギャラリー展示スタッフのベテラン2人(1人はガラス作家!)が、参加者の大切な作品を丁寧に仕上げてくださいました。

冒頭の一言は、プログラムが終わったあと、遠い目をしながら2人がつぶやいた言葉です。

本当にお疲れ様でした!

2014年8月9日~10日「サンドブラスト体験」にて
大繁盛でうれしい悲鳴

2016年のゆうくんとマットさんのプログラムは、館内にあるヒントを頼りに、隠された読み聞かせ道具を取り戻すというもの。

館内のいろいろな場所にヒントを貼り、図に乗った担当者Xはふと思いつく。

エントランスホールに展示してある小中学生の書道作品にまぎれて、ヒントとなる「ふんすい」と書いたお習字を貼ってしまえ!

ところが、準備に大忙しのXは、他の部署に伝えるのをすっかり忘れてしまい、「あれは何だ?!」とちょっとした騒ぎに。

「こういうことをする時はちゃんと教えてくださいね!」とこっぴどく叱られた…とか!?

改めて、ほうれんそう(報告・連絡・相談)は大切ですね、というお話でした。



噂の書道作品



一見周りに溶け込んでいますが…

おはなしトラベルで
トラブル発生?!
2016年8月20日「ゆうくんとマットさんのおはなしトラベル」にて

お菓子配りすぎ事件

2012年8月18日 スタッフ用お弁当コーナーにて

毎日約80人もいるスタッフ用のお弁当を配るのはなかなかの重労働。

2012年はCACギャラリートーカーの川野辺さん(→P.85)が、笠原さん(→P.84)のヘルプに入ったものの、持ち前のあふれる博愛精神が暴走(!?)し、2日分用意していたお菓子を1日で配りきってしまいそうに!

気づいた時にはすでに遅く…スタッフが深夜にお菓子を買いに走ったそうです。もちろん川野辺さんは厳重注意。次の日からは適切な(?)配分をしてくれました。

[後日談] その後も川野辺さんはお弁当係を引き受け、この事件は毎年笑い話として語り継がれています。



機械の中で砂を吹きかけ、表面を削ります



スリガラスになったガラス

放課後子ども教室について



こども・こらぼ・らぼのプログラムは 出張授業もしています！

水戸芸術館現代美術センターでは、水戸市総合教育研究所^{*1}の依頼により、2015年より放課後子ども教室^{*2}のプログラムの企画と運営をしています。この2年間はこらぼらぼと関連させたプログラムを実施しており、2015年はアーティストの柵瀬茉莉子、2016年はアーティストの林友深と出張授業を行いました。

2015年は水戸市内の小学校3校で行った連続プログラムをこらぼらぼでも行い、作品を完成させて水戸芸術館で展示をしました。2016年はこらぼらぼで行ったプログラムを発展させ、小学校1校で実施しました。

^{*1} 水戸市の学校教育の充実と振興を図る施設

^{*2} すべての子どもを対象に、地域の方々の参画を得て学習や様々な体験・交流活動、スポーツ・文化活動等の機会を提供する取組み

2015年の様子



学校にある気に入った葉っぱを集めて大きな布にぬう



葉をぬう前には、日付とサインを。葉が枯れ落ちても残る



渡里小学校、笠原小学校、上大野小学校、こらぼらぼと同じ布にぬい続け、パトンを渡していく



放課後子ども教室ではアーティストが自身の作品について話す時間も



水戸芸術館エントランスホールでの展示風景（展示期間：2015年8月25日～9月6日）

2015年 「木の葉とぬいの実験教室」

講師：柵瀬茉莉子（アーティスト）

- 6月23日[火]・24日[水]
水戸市立渡里小学校／参加者：49名
- 6月27日[土]
水戸市立笠原小学校／参加者：51名
- 6月28日[日]
水戸市立上大野小学校／参加者：19名

2016年 「光のマンダラを描こう!」(→P.26~27)

講師：林友深（アーティスト）

- 9月15日[木]
水戸市立笠原小学校／参加者：30名

こども・こらぼ・らぼについて

「こども・こらぼ・らぼ」―未来への稽古場

水戸芸術館現代美術センター

教育プログラムコーディネーター 森山純子

子どもたちが誰かと一緒に行動する実験室——そんな意味合いの企画名を構想したのは2007年頃です。^{*1}

先行して実施していた「高校生ウィーク」^{*2}で、少しの場所と支援があれば、参加者が自立して創造的な活動ができることを見てきたので、下の世代でもそんな場を作ることが可能ではないかと考えました。実際に美術部門（＝現代美術センター）では、同名の企画を2008年夏に1度だけ実施しています。^{*3}

次にこの企画が実現したのは2011年の東日本大震災が契機となります。被災により水戸芸術館が数か月閉館するなか、水戸市から「子どもたちが楽しめる企画」を依頼された時、今度は館全体で子どもたちのためにプログラムを実施したいと考えました。

折しもこの未曾有の状況のなか、芸術に関わる人々の多くは「芸術は何ができるのか」を自問していたと思います。私たち水戸芸術館の職員は当時の吉田秀和館長から、『「想定外」という言葉は一部の人の責任ではなく、私たち皆の問題。想像力が欠如していたのではないか。芸術家は今まで見たこともないものを作る人たちで、芸術は皆の想像力を養う手伝いができるはず』そんな主旨の講話を聞き、心に刻んだばかりでした。^{*4}

「想像力を育てる」一言うは易しのこの課題に対して「こども・こらぼ・らぼ」が答えを出せたのかどうかはわかりません。たった2日間の、同時多発的な企画の中ではできることは限られます。しかし、何事も大人が先回りして無駄

なく安全に導かれ、一つの答えに向かいがちな子どもたちが、芸術の持つ寛容性、多様性に満ちた表現と人に触れることや自分とは異質なものに触れる機会は、生きていくためのレッスン、その入り口になり得ると考えます。

子どもたちが成長していく今日の世界は、さまざまなレベルで断絶が憂慮され、複雑に絡み合い、矛盾に満ち、一つの答えで解決できるものではありません。いつかまた一瞬で文明の利が奪われ、自然の脅威の前に立ちすくむかもしれません。私たち大人もまた同じです。自ら感じ、思考し、表現する態度は市民の大切なリテラシーとして備えたいものです。

急ごしらえの初年度から、同時多発的なプログラムを運営し、何百人もの参加者を迎えることができたのは、現場の判断や心くばりを安心して託すことができるスタッフやボランティア、水戸芸術館の人的資源があつてこそでした。毎年80名ほどが分散して動く各現場では、参加者だけでなく、博物館実習生や新しいボランティアをフラットな関係性の中で育てていく二重のワークショップ構造がありました。表には

出ませんが、この点も企画の原動力として記しておきたいと思います。

子どもに関わることは未来に関わること。例えば一見他愛のない小さな作業や、少しの時間でもアーティストや、芸術に関わる人たちと交わす一つの言葉が、誰かの心の中に残り、いつかその人が自分らしく道を開くための小さな種となるかもしれない。そんな淡い期待とともに毎年たくさんの親子の笑顔を見ながら6年が過ぎました。

この先子どもたちと関わるプログラムは形を変えていくかもしれませんが、水戸芸術館が、訪れる方たちの想像力を拡げ、刺激する場として変わらずあり続けたいと願います。

*1 「こども・こらぼ・らぼ」は、「こどもといっしょに活動する実験室」をイメージして、こども、コラボレーション（collaboration／協力、合作）、ラボラトリー（laboratory／実験室・製作室）を組み合わせた造語

*2 毎年3月に実施する高校生と同年代を対象とする無料招待月間。期間中開設する多世代を対象とした無料カフェでワークショップや部活動を行う

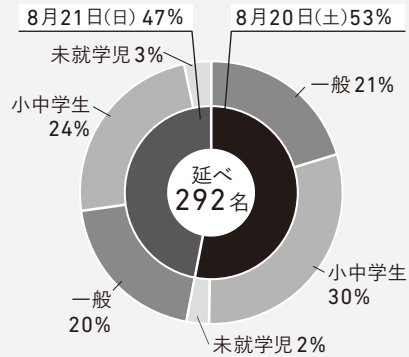
*3 ボランティアによるジュリアン・オビー展のこどもギャラリートークとアーティスト前川秀樹によるワークショップ「記憶の箱」を実施

*4 吉田秀和初代館長によるメッセージ「東日本大震災の被災に寄せて」は、水戸芸術館のホームページ「水戸芸術館について」で閲覧可能

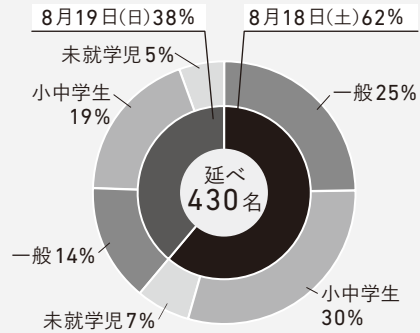
参加者データ

年別の参加者*

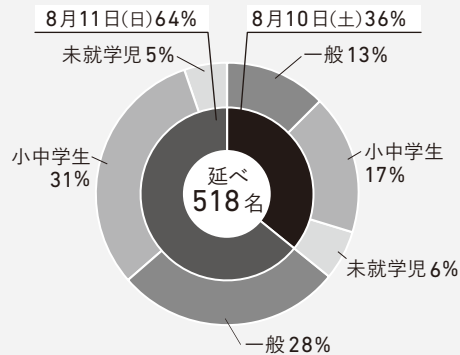
●2011年



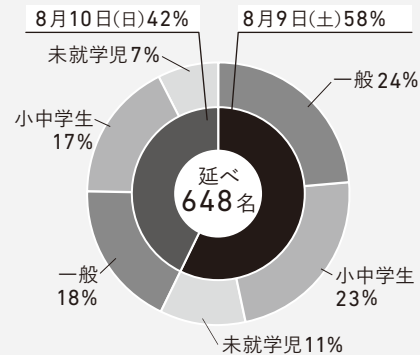
●2012年



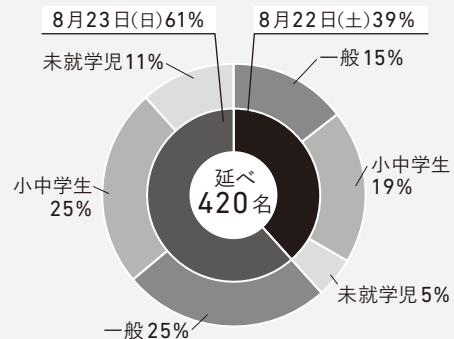
●2013年



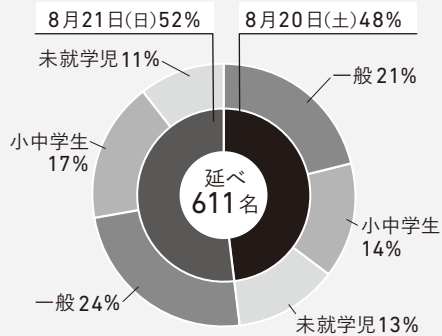
●2014年



●2015年



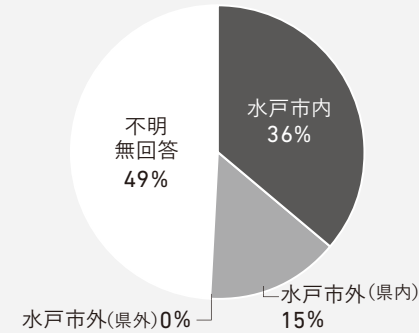
●2016年



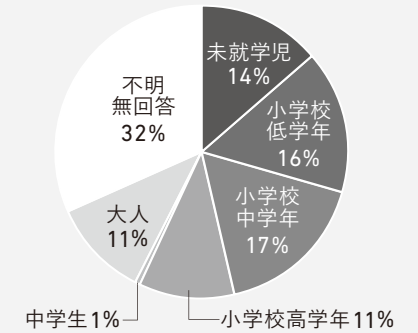
* 無料プログラム参加者を除く

2016年 参加者について

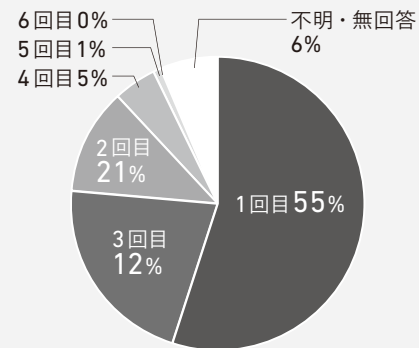
●居住地



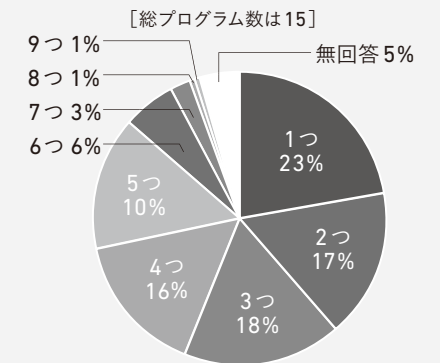
●年齢層



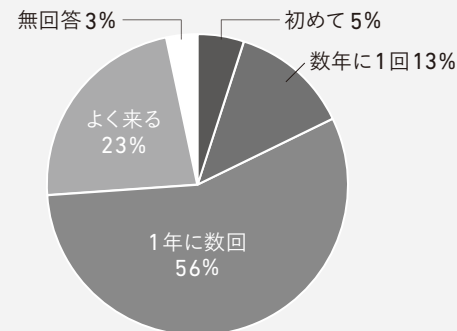
●こどもらぼの参加回数



●今年の参加プログラム数



●水戸芸術館の来館頻度



[アンケート回答者 | 2日間合計 196名]

「こども・こらぼ・らぼ」記録集 2011-2016

水戸芸術館現代美術センター資料 第104号

編集 森山純子、佐藤麻衣子、本間未来、石井一十三（水戸芸術館現代美術センター）
デザイン 黒澤文子、高梨成美（vangraphics）
撮影 大谷健二、仲田絵美、根本譲、松本美枝子、山崎宏之
写真提供 伊藤友二、臼井智子、刑部アツシ、進多賀彦、田澤純、服部泰
印刷 株式会社光和印刷

発行日 2017年2月15日
発行 水戸芸術館現代美術センター ©2017
310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
tel.029-227-8120 fax.029-227-8130
www.arttowetmito.or.jp

禁無断転載

